

令和2年度事業報告

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

はじめに

令和2年度の事業計画では、平成31年4月1日に施行された改正「文化財保護法」の趣旨を踏まえ、歴史的な建物や史跡などをより積極的に活用できるようになったことから、文化資源の観覧等を通じて、文化についての理解を深めることを目的とする観光の推進に資する事業を展開するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が予定されていたことから、横浜市の動きを踏まえ、財団としても積極的に取り組んでいくこととしていました。

しかしながら新型コロナウイルス感染拡大防止に最優先で取り組む必要が生じたため、財団としても各施設を臨時休館としたほか、感染拡大防止策を徹底したうえで、各施設を再開館するとともに、コロナ下における博物館活動を模索しながら、新たな事業の実施と併せて、財団事業の根幹である調査研究事業に注力しました。

また、令和2年度は第5期協約マネジメントサイクルの最終年（3年目）として、協約目標の達成が求められる年でもありましたが、施設に集うことを前提とした目標については、新たな生活様式への変化もあり、達成することはできませんでした。

一方、財団の財務状況については、職員個々の経費節減への取組や財団としての外部資金獲得への取り組みにより、正味財産期末残高を2億円以上に回復することができました。今後も経営環境を整え、財務体質の改善を図ることにより、財団の使命達成に向けて積極的に動くことができる財務状況を確立していきます。

○臨時休館（歴史博物館は工事により8月から休館中）

(1) 令和2年2月29日（土）から休館

開港資料館、都市発展記念館、ユーラシア文化館

(2) 令和2年3月2日（月）から休館

三殿台考古館、埋蔵文化財センター、八聖殿郷土資料館

○再開館

(1) 令和2年6月1日（月）から開館

埋蔵文化財センター

(2) 令和2年6月2日（火）から開館

歴史博物館、開港資料館、都市発展記念館、ユーラシア文化館
三殿台考古館

(3) 令和2年6月20日（土）から開館

八聖殿郷土資料館

I 財団本部事業

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

新型コロナウイルス感染拡大防止に横浜市と連携して取り組みました。また、諸会議の運営や事業調整を実施し、円滑な組織の運営を図るとともに、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を的確に実施しました。

	事業区分	事業内容
1	円滑な組織運営	(1) 人材育成を図るための研修実施 ・外部研修への参加（公益法人協会主催セミナー等） (2) 職員が自らのキャリアパスを意識できる申告制度の実施 職員自己申告の実施 (3) 役員会議等の諸会議の開催、規則整備 役員会議（第1部、第2部） 月2回 課長会議 月2回程度 担当係長会議 月1回程度 <主な内容> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対応について ・横浜市文化財保存活用計画について ・文化庁助成事業について ・人事制度について（高齢者雇用安定法への対応等）
2	人事労務・財務の管理	(1) 職員の採用、異動等雇用管理 (2) 就業規則ほか諸規則の整備及び運用 (3) 給与、社会保険、税金関係等 (4) 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策 (5) 職員メンタルヘルスの支援 (6) 寄附金・協賛金獲得の企画調整
3	予算編成と執行管理	(1) 予算要求制度の継続実施 (2) 予算編成、執行管理、決算の実施
4	災害対応	(1) 防災訓練の実施
5	理事会・評議員会の開催	(1) 理事会の開催 年4回（リモートを含む） (2) 評議員会の開催 年2回（書面を含む） (3) 神奈川県への報告
6	所管局への報告・調整	(1) 指定管理・委託事業の報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく報告 (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止対応等の報告・調整 (4) 課題の共有と迅速な対応を図るための意見交換の実施（毎月）

7	共同広報の実施	(1) 財団ホームページの管理（情報公開項目の更新等） (2) 財団メルマガ「よこはま歴史かわら版」発行
8	情報システムの管理	(1) 情報システム機器（ソフトウェア等を含む）の保守・管理 (2) 情報セキュリティに関する啓発・研修 (3) 財団内システムの円滑な運用 (4) 在宅勤務者へのシステム対応
9	事業推進	(1) 事業戦略に係る共通認識の形成 ・課長会議、管理運営担当係長会議を通じた共通認識の形成 (2) 財団内での多様な連携で取り組む「連携事業」の推進 ・横浜市新市庁舎完成記念3館連携展示の開催 (3) 財団の役割や事業を伝える効果的な広報戦略の実施 (4) 市民協働の推進 (5) コロナ下における博物館活動の検討、実施
10	エデュケーター事業	(1) 学校連携による財団各施設の利用促進 (2) 教職員研修の企画・調整・運営 ・横浜市教委、小・中社会科研究会、財団が主催する研修 (3) 横浜市学校研究会の企画・調整・運営 ・小学校博物館利用研究会、中学校教材開発研究への支援 (4) 社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援 (5) 学校から要請のあった訪問授業への対応 ・実施校 63 校、対象児童 5,817 人 (6) 授業改善のためのアンケート実施と検証 (7) 子どもの学びのための資料作成

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	<p>新型コロナ感染拡大防止に際して、横浜市と連携して適切に対応することができたが、協約目標は一部、達成することができなかった。</p> <p>事業支出の抑制等により財務状況を改善し、正味財産期末残高は2億円を超えることができた。同時に、コロナ下における博物館活動を検討、実施することで、市の歴史文化事業を担える組織の適格性を示すことができた。</p> <p>また、公益財団法人として諸届の事務、業務の調整、諸会議の運営、人事労務事務等は適切に実施することができた。</p>	A

II 指定管理事業

1 財団全体としての取組及び事業

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、指定管理5施設は4月1日から6月1日までの2か月間、臨時休館し、各施設において感染拡大防止策に取り組んだうえで6月2日から再開館しました。この臨時休館に伴い、予定していた企画展示も変更を余儀なくされましたが、財団内での連携事業である横浜市新市庁舎完成記念3館連携展示は会期を変更して実施しました。

また、再開館後は各施設においてSNS等による発信への取り組みを強化するとともに、展示解説の動画等を制作するなど、コロナ下における新たな博物館活動を模索してきました。こうした取り組みに際しては、職員一人ひとりが従前の手法に捉われることなく、柔軟な発想のもと、それぞれの専門性を発揮することで、実現することができました。今後も職員の知識、経験、行動力を集結し、新たな博物館活動を構築していきます。

【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先	中心となる施設	内容	
区・地域との連携	全区	全管理運営施設	各管理運営施設の所在区をはじめとして、各区の要請等により、歴史文化に関する助言や執筆活動等による支援を実施	
	特定テーマや事業を通じた連携	中区	開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま なか区版」の連載記事「中区歴史の散歩道」に執筆
		金沢区	歴史博物館 埋文センター	・「むかし体験」訪問歴史授業を実施 ・金沢図書館で企画展「横浜の遺跡展」を開催
		港北区	歴史博物館 埋文センター	・小机城跡普及出張授業を実施 ・お城 EXP02020 に市域の中世城郭を出展
		都筑区	歴史博物館	・都筑図書館開館 25 周年記念講演会の開催協力及び都筑図書館での関連展示
		青葉区	埋文センター	・勾玉作り教室、遺跡巡りを開催（青葉台コミュニティハウス、美しが丘西地区センター）
栄区	埋文センター	・栄図書館で企画展「わが町の遺跡」を開催 ・栄区郷土資料室入室・受付・案内		
市との連携	市民局	開港資料館	・広報課発行「季刊誌横濱」各号への執筆 ・広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」等への出演	
	道路局	開港資料館	・「横浜横須賀めぐりサイクルスタンプラリー」のスタンプポイントとして協力	
	交通局	都市発展記念館	・市営交通 100 周年事業に監修等の協力	
教育委員会との連携	小中学校企画課	全施設	・教材研究資料として財団作成資料等を発信 ・教職員研修への協力	
	教職員育成課	全施設	・新採用教員への施設年間無料パスを配布	

	生涯学習文化財課	歴史博物館 全施設	<ul style="list-style-type: none"> 指定登録文化財展の開催 仏像展の開催 文化財調査への協力 横浜市文化財保存活用地域計画の作成協力
市・区研究会との連携	社会科研究会 (市・区)	全施設	<ul style="list-style-type: none"> 教員研修講師、施設見学、教材研究用資料案内 小学校博物館利用研究会の運営支援 中学校教材開発研究会の運営支援
学校との連携	小学校	全施設	<ul style="list-style-type: none"> 歴史学習、社会見学、展示見学の受入 学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小中学校	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> 学校資料室への訪問授業 学校資料室の資料整理及び活用支援
	神奈川県高等学校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科学研究発表大会を開催し、歴博、開港の館長が審査員を担当
	近隣小学校	三殿台考古館	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の地域交流クラブに講師を派遣 総合的な学習の時間等への支援
他館等との連携	日本博物館協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> 日本博物館協会が主催する全国博物館大会に実行委員等として参加し、大会を開催
	県博物館協会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市市民ミュージアムの資料レスキューのため職員を派遣
	県立歴史博物館等	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会及び調査研究を目的に資料を貸出
	奈良県立橿原考古学研究所	ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> 橿原考古学研究所附属博物館と共催で巡回展「しきしまの大和へ」を開催
大学との連携	大学等	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> 東海大学と連携し、企画展「俳優緒形拳とその時代」を開催 神奈川大学日本常民文化研究所と共同で青森市教育委員会などの「日本の古布」資料調査
	大学	開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> 東海大学文学部歴史学科と共同で、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究を実施
市民協働	市民ボランティア	歴史博物館	<p><展示解説ボランティア></p> <ul style="list-style-type: none"> 大塚遺跡等の野外施設及び常設展示室の解説は、ガイドがコロナ対策をした上で実施 学校団体へのガイドは、可能な限り小グループに分けて実施 <p><活動支援ボランティア></p> <ul style="list-style-type: none"> 感染対策を取った上で体験学習を安全に実施する「当日参加型れきし工房」の試行に協力
	遺跡ガイドボランティア及び遺跡整理ボランティア	三殿台考古館 埋文センター	<ul style="list-style-type: none"> 遺跡ガイドボランティアによる常設展示、遺跡ガイドを実施 ボランティアの協力を得て出土資料や写真の再整理を実施

	横浜郷土史団体連絡協議会	開港資料館	・協議会の総会、研修会、記念講演会は中止となったが、協議会 News 及び会報を発行
	横浜歴博もりあげ隊との協働	歴史博物館	・講演会の開催支援、講座への講師派遣
	横浜縄文土器づくりの会	歴史博物館	・土器づくり講座の開催支援
	古文書を読む会	歴史博物館	・リモートによる講座の開催支援 ・講演会の開催支援
	古代資料を読む会	歴史博物館	・講読講座の開催支援
	さいかちの会	歴史博物館	・研修会への講師派遣
	スタチューパフォーマンス協会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・第1回横浜ユーラシア・スタチューミュージアムを開催し、オリジナル・スタチュー「赤い靴の女の子」を含む8体のスタチューを設置
地域連携	横浜商工会議所	開港資料館	・機関誌「Yokohama 商工季報」への寄稿
	横浜港振興協会	開港資料館	・機関誌「よこはま港」への寄稿
	横浜市防火防災協会	開港資料館	・機関誌「よこはま都市消防」への寄稿
	中区区民利用施設等	ユーラシア文化館	・「なか区ブックフェスタ」に参加
	横浜中華街発展会	ユーラシア文化館	・横浜中華街発展会協同組合50年史編纂事業に参加
	よこはま地域文化遺産デビュー・活用実行委員会	歴史博物館	・地域文化遺産交流拠点事業、観光拠点化事業、広報発信事業を民家園、遺跡公園、博物館等を会場に実施
	区や地域の郷土史団体	歴史博物館	・講座、講演会に講師を派遣
	磯子区館長連絡会	三殿台考古館	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	栄区施設交流会	埋文センター	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	栄地域史研究会	埋文センター	・考古学講座、歴史散策を共催 ・地域歴史散策、地域歴史散策特別編を共催 ・20周年記念誌への寄稿
	栄区石仏・石塔歴史調査研究会	埋文センター	・「いたち川流域の石仏・石塔巡りマップ」監修
企業との連携	横浜ビー・コルセアーズ	歴史博物館	・横浜ビー・コルセアーズとスポーツ文化を通して地域貢献を目指す協定を締結 ・横浜ビー・コルセアーズ「ファンミーティング2020」及び「パブリックビューイング in 歴博」を開催

2 歴史博物館事業

指定管理期間の折り返しであり、協約の最終年度となる令和2年度は、前年度の天井外壁改修工事による令和元年8月から令和2年3月末に至る休館に引き続き、新型コロナウイルスの影響による4・5月の休館という未曾有の状況からスタートしました。そして本年度は、人を集める、人が集まるという方向性が否定され、これまでとは異なる「ウィズコロナ」時代の博物館を模索し続ける一年となりました。

資料収集・調査研究事業では、昨年度から始まった港北区新羽町の伊藤家資料、平成29年から続けている都筑区川和町中山家資料の調査等、博物館の基礎的な収集や整理の活動をはじめ、テーマ研究や市民共同研究等の基礎資料研究、連携調査研究、次年度以降の企画展調査、資料の基礎整理といった調査を実施しました。調査報告書には港南区笠原家資料の再整理の成果を、紀要には基礎資料研究や連携調査研究などの調査成果3報告を掲載しました。このほか企画展などにより、成果を広く市民に還元していきます。

常設展事業では、昨年度の休館中に準備を進めていた、来館者自身のスマホを利用した日本語を含む多言語解説アプリ、またQ&Aやビデオを視聴できるプログラムをスタートしました。常設展の魅力向上を図るとともに、接触感染リスクに対応したシステムとしても運用しています。

企画展事業は、上半期に予定していた展示については会期変更や開催1年延期という対応のうえ、1展示を開催しました。会期を変更した企画展「明治大正ハマの街」では、休館中にSNSを通じての展示資料の解説、会期中には解説映像の発信を行い、コロナ禍を踏まえた方法で市民に働きかけました。計画通りに開催した下半期展示では、東海大学と連携した企画展「俳優緒形拳とその時代」、「令和2年度横浜市指定・登録文化財展」、横浜市教育委員会との共同開催による特別展「横浜の仏像」など、コロナ禍で沈滞・委縮する世間の雰囲気の中で多くの市民の関心に応える充実した内容の展示をいたしました。学術的成果を反映させ出版した関連書籍『戦後大衆文化史の軌跡—緒形拳とその時代—』や図録『横浜の仏像』は目標を大きく超える販売数となったほか、来館者数や事業収入、またミュージアムショップの活性化など、大きな成果を上げました。

各種の歴史講座や体験学習などの企画普及事業については、十分な感染症対策を図りながら、実施や試行に取り組みました。このうち古文書講座では、初めて双方向オンライン講座として実施しました。

よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業は、文化庁助成の終了を受けてクラウドファンディングなどを活用しながら、大塚遺跡や都筑民家園での雅楽コンサートや活花パフォーマンスなど様々な事業を展開しました。特別展「横浜の仏像」関連コンサートではライブとオンラインの併用を試みました。

市民協働事業は、コロナ禍での制限を受けながらも、展示解説ボランティアによる活動や、平成29年度から実施しているかやぶき屋根プロジェクト、また博物館に集う関連団体とも引き続き連携事業を実施しました。学校連携については、学校団体見学を7月に試行し、9月から1日1校受入で再開しました。訪問授業については拡充して実施したほか、金沢区や港北区から委託を受けた訪問授業も実施しました。

施設の管理運営面では、外壁工事の工期が12月まで延長され、6月以降は開館しながらの工事実

施となりました。また長期休館後の再開にあたって市民サービスと効率性の向上を図り、受付等の配置と機能を開館以来初めて見直したほか、自販機を含めてキャッシュレス決済を導入しました。下半期には接触感染リスク対策と利便性向上のため、事前予約オンラインチケットサービスの導入や、ミュージアムショップのオンラインショップ開設を実施しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・寄贈・マイクロ撮影等で収集し、分類・整理するとともに良好な状態で保管するため、資料の燻蒸を行いました。

また、神奈川県博物館協会の川崎市市民ミュージアムの資料レスキューに職員を派遣しました。

(1) 資料の収集・管理

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 4 件 36 点 寄託 3 件 1,359 点	主な寄贈資料：根本家伝来位牌等、 主な寄託資料：横浜市港北区最戸 笠原靖幸氏所蔵資料 阿弥陀如来坐像、笠木治郎吉絵画作品
実物資料の購入	1 件 1 点	主な収集資料：野田正輝所蔵文書写本
移管資料の保管	移管 1 件 4 点	主な収集資料：横浜彫刻家具 1 件 4 点 (文化観光局観光振興課より教育委員会生涯学習文化財課に移管後、保管場所を当館とした)
マイクロ撮影	2000 コマ 製本 10 冊	主な資料：金沢藩士萩原家文書
資料の整理活用（収集資料のデータ入力）	2,503 件	図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	2 件 24 点	他機関における展覧会、および調査研究を目的に資料の貸出を行った。 ・神奈川県立歴史博物館特別陳列「出土文字資料からみる古代の神奈川」 石神遺跡出土木簡「諸岡五十戸」複製 平城京二条大路出土木簡「三宅郷茜廿斤」複製 正倉院文書「天平十年駿河国正税帳」複製 東大寺薬師院文書〔相模国調邸関係文書〕複製 令和 3 年 2/6～3/28 ・相模原市立博物館企画展「変化の時代を生きた縄文人」 小丸遺跡出土炭化種子 20 点 令和 3 年 4/1～5/9
図書資料の公開	4,105 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 807 カット	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の

		撮影と整理を行った。
画像資料の貸出	貸出件数 33 件 75 点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (R2.4~R3.3)

※ () 内は、前年度点数

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵画 (点)	(一)	(一)	(一)	1 (7)	1 (7)	1,986 (1,985)
工芸品 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	132 (132)
彫刻 (点)	(一)	(一)	(一)	1 (一)	1 (一)	21 (20)
書跡 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	54 (54)
典籍 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	4,709 (4,709)
古文書 (点)	(一)	(一)	(一)	1,357 (一)	1,357 (一)	33,509 (32,152)
古記録 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	55 (55)
絵図 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	172 (172)
歴史資料 (点)	1 (一)	(一)	16 (18)	(一)	17 (18)	18,901 (18,884)
考古資料 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	24,535 (24,535)
民俗資料 (点)	(一)	(一)	20 (249)	(4,104)	20 (4,353)	17,595 (17,575)
図書文献資料 (点)	120 (221)	(一)	1,497 (1,068)	(一)	1,617 (1,289)	75,591 (73,974)
合計	121 (222)	(一)	1,533 (1,335)	1,359 (4,111)	3,013 (5,668)	177,260 (174,247)

このほか、資料の移管により、横浜市所蔵横浜彫刻家具 4 点を保管した。

(3) 図書閲覧室利用状況

※令和 2 年度開室期間 7/1-3/31 (新型コロナウイルス感染拡大防止)、令和元年度開室期間 4/1-7/31 (施設改修工事)

項目	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年
閲覧室利用者数 (人)	4,495	4,287	7,193
複写申込件数 (件)	221	141	536
複写枚数 (枚)	2,081	1,700	5,887
レファレンス件数 (件)	260	223	762

(4) 資料の保管

項目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	新規収蔵資料はすべて燻蒸を実施の上、収蔵庫に搬入したほか、収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて点検を行

	い、必要のある資料は再度燻蒸して入庫する措置をとった。
保存燻蒸処理	二酸化炭素燻蒸を4月、5月、8月、10月の計4回行なった。3月には二酸化炭素測定器の点検を実施した。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保管資料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの各資料を保管する考古収蔵庫・歴史収蔵庫・特別収蔵庫・民俗収蔵庫の管理を行った。庫内環境を見直し、清掃方法を確認し、防塵マットの設置・交換を行った。

(6) 旧家所蔵資料調査

港北区新羽町の伊藤家資料、平成29年から継続している横浜市都筑区川和町の中山家の民俗資料と開港資料館へ移動した同家の資料群の調査・整理を実施した。



伊藤家資料調査



川崎市市民ミュージアムレスキュー

(7) 博物館資料レスキュー

川崎市市民ミュージアムの博物館資料レスキューのために神奈川県博物館協会に職員を派遣し、作業のための古文書修復ワークショップの受講、および歴史資料の乾燥・解体などの作業に当たった。冬季以降は新型コロナウイルスの感染拡大により、参加を見合わせた。

古文書修復 WS	7/16 (木)・10/15 (木)	2日間	4名
12月	12/3 (木)	1日間	1名
合計		3日間	延5名

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館活動の原資となる調査研究は、（１）基礎資料研究、（２）他施設と連携して行なう連携調査研究、（３）次年度以降の企画展開催に向けた調査研究、（４）資料の基礎整理について、次の通り実施しました。

（１）基礎資料研究

項 目	目的・意図
基礎研究	
市域所在の中世資料の調査（２／２年次）	<p>本調査研究では、市域に所在する中世資料の再確認を実施する。またその他市域に所在する古文書・金石文等の資料について、近世・近現代の財団職員と連携し、調査と撮影を行う。</p> <p>今年度は、博物館で調査をすすめている「関家文書」を引き続き継続した。一部の袋が旧調査のままであるため、中性紙封筒への袋替え作業を博物館実習生とともに行った。新羽町伊藤宏見氏旧蔵資料については現地での実見・整理を行い、今後博物館に収蔵すべくより細密な整理作業に着手する予定である。</p>
横浜市域の近世近代絵画の基礎的研究（２／２年次）	<p>当館及び財団諸施設また市域の旧家には多くの絵画資料が存在するが、従来は歴史の傍証として使われることが多かった。これらを美術本来の資料として捉え基礎的データを作成する。</p> <p>本年度は、横浜市文化財調査の一環で実施した寶林寺（南区北永田）の宝物調査並びに整理を継続実施した。将来的には館蔵の禅宗画と合わせて横浜の禅林美術をテーマとした展覧会に結実するよう、今後も調査を進めていく。</p> <p>また、これまで歴史資料として扱われてきた館蔵の浮世絵を対象に、美術作品として必要な収蔵目録情報を加える再調査を実施した。今年度は浮世絵作品に必要な調書項目について、原資料をもとに再調査を進め、作品情報の追加・修正を行った。</p>
横浜市指定・登録民俗文化財に関わる調査研究（２／２年次）	<p>横浜市指定・登録の民俗文化財を伝承してきた地域について民俗調査を実施し、伝承母体と地域性などを明らかにする。</p> <p>本年度は、文化庁の地域文化財総合活用推進事業を申請・活用しながら、青葉区鉄町に伝わる県指定無形民俗文化財「鉄の獅子舞」で使用される天狗面の調査をおこなった。</p>
テーマ研究	
近世後期の矢倉沢往還と沿道の村々の研究（２／２年次）	<p>昨年度解読した荏田宿青木家文書のほか、青葉区・緑区・都筑区に残る関連古文書の有無について、『横浜市市史料所在目録』などにて確認した。川和村の古文書に、幕末期に村で治安維持のための鉄炮を所持していた記述がみられ、当該期の矢倉沢往還周辺農村の治安や社会状況の一端が明らかとなった。次年度以降は、横浜開港場と当該エリアの村々との関係などを視野に入れ、これらの文書を分析する研究を実施していきたい。</p>

活字文化と横浜の出版文化に関する研究（2／2年次）	活字史の研究成果を整理し、横浜における活字の発展の歴史を明らかにする。本年度は活字史研究家小宮山博史氏より寄贈された資料の再整理を進め、また同コレクションを活用した平仮名・片仮名字形一覧の基礎データ作成作業を行った。今後成果を紀要等で報告したい。
学校内歴史資料室に関する研究（2／2年次）	近代以降の商品として流通する農具や荒物から昭和期の家電製品までのデータベース構築にむけ、基礎情報の集積を図るため前年度に引き続き文字情報のテキストデータの作成を進め、合計1284件のデータとなった。
学校内歴史資料室に関する研究（2／2年次）	平成25年度から実施している学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用しながら、学校内歴史資料室の資料所在状況等を明らかにする。本年度は6月から鶴見区の寺尾小学校のふるさと資料館所蔵資料490点、泉区の和泉小学校所蔵資料683点の整理をおこなった。
都筑区川和町中山家に関する研究（1／1年次）	平成30年度から「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」（文化庁地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業）として実施している資料整理中にみつかった文字資料としての冊子類について調査研究を行い、紀要にて「翻刻 中山恒三郎家「営業簿」（昭和三～四年）」として発表した。
市ヶ尾地域の古墳時代の研究（1／1年次）	稲荷前古墳群・朝光寺原古墳群の調査資料の所在調査をおこない、いくつかの図面の所在が確認できた。次年度から行う基礎研究「横浜市域の古墳時代資料の研究」において、所在調査を継続するとともに、出土資料の基礎整理を埋蔵文化財センターと連携して実施したい。
市民協働調査研究	
土器の実験考古学的研究（2／2年次）	大塚遺跡出土宮ノ台式土器の台付甕の製作実験を横浜縄文土器づくりの会の協力を得て作成した。作成した台付甕や資料の観察データのまとめを実施した。その成果は紀要等で報告したい。
市民協働古文書整理および解説（2／2年次）	武州金沢藩の目付日記（明治3年）の解説を行い、紀要にて成果を報告した。これまでは解説メンバーが博物館に集合して輪読を行っていたが、今年度はコロナ禍に対応し、オンライン会議システムを利用してリモートで輪読を行った。初めての試みであったが、無事解説を終えることができ、今後の古文書学習の一つの方向性も見出すことができた。
市民協働民俗調査（2／2年次）	昨年度に引き続き、民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを実施した。コロナ禍により4～8月は中止とし、9月から再開した。 9/20 緑区十日市場町・新治町、11/15 緑区長津田町・霧が丘・新治町・西八朔町、12/27 緑区十日市場町・西八朔町、2/23 緑区小山町・新治町・三保町。

(2) 連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施した。

項目	目的・意図 及び 内容・成果
大塚遺跡の水田に関する	過去2回実施したボーリング調査および、炭素年代測定調査結果を当館の紀要

る研究（2／2年次）	第25号に掲載した。
ユーラシア概念をめぐる研究（2／2年次）	ユーラシア文化館と連携して、日本の古代から中世世界を包括する東部ユーラシア世界の研究を進める。 今年度はコロナ禍の影響で研究発表会を開催することができなかった。

(3) 企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「日本の古布（仮題）」	連携している神奈川大学日本常民文化研究所と共同で、青森市教育委員会や福島県立博物館、会津民俗館など資料所蔵機関への資料調査を行った。
企画展「武州金沢藩の幕末維新」	展示計画を検討し、資料所蔵機関や個人に対し調査・出陳交渉を行った。金沢区の瀬戸神社、秦野市の蔵林寺にて資料調査を行った。
「考古と美術で語る文化遺産の現在・過去・未来（仮題）」	展示計画を検討した。 現代作家数名に対して出陳交渉を行った。
令和4年度以降企画展調査	令和3年度以降の企画展について、基礎調査を行った。

(4) 資料の基礎整理

資料収集や調査研究に係わる資料について整理を行った。

	資料群	点数	備考
1	栄区旧家古文書	150	継続
2	港南区旧家古文書	260	完了
3	へボン関係資料	100	継続
4	活字関係寄贈資料	100	継続
5	都筑区旧家民俗資料	180	継続
6	港南区旧家民俗資料	36	完了
7	凧コレクション	1974	完了

・このほか、横浜市教育委員会からの依頼により、令和2年7月～令和3年3月まで横浜市八聖殿郷土資料館所蔵の民俗資料の整理調査を行った。

(5) 調査研究報告の刊行

『横浜市歴史博物館調査研究報告第17号』を刊行した。

今号は、資料を借用し整理を行ってきた港南区の笠原靖幸氏所蔵資料が、今年度寄託となった。市域に残された貴重な資料であり、再整理の成果をまとめ、報告した。

(6) 紀要の刊行

『横浜市歴史博物館紀要第25号』を刊行した。今号は以下に掲載した。

研究ノート ・ 新指定文化財・港北区法華寺蔵の大般若経をめぐって

- ・横浜考古学史の人びと 1 ・高津真亮
- 報 告 ・大塚・歳勝土遺跡周辺のボーリング調査
- ・坂上克弘氏講演予定資料の掲載について
- ・横浜と近代遺跡
- ・大塚・歳勝土遺跡公園、横浜市三殿台考古館における復元建物の修繕・建て替えについて
- 資料紹介 ・仏向貝塚採集の中空土偶
- ・翻刻 中山恒三郎家「営業簿」(昭和三～四年)
- ・「明治三年 武州金沢藩(六浦藩) 監察日記」(1)

(7) 調査への職員派遣

下記調査に職員を派遣した。

名称・日程	派遣人数	内 容
横浜市文化財調査 6/23 (火)	1 名	横浜市教育委員会による文化財の総合調査 宗教法人真福寺(青葉区)

3 常設展事業(定款第4条第1項第1号②)

常設展示室においては、新型コロナウイルス感染拡大防止策として展示解説ボランティアによる常設展示室の解説を中止(4/1～6/1、1/8～3 月末)したほか(ただしガイドを希望する学校の来館には個別に対応した)、毎月最終土曜日のラストサタデープログラム等の各事業も中止しました。

実施した事業としては、市内小学校3年生の見学に対応するためスタディサロンに「ちょっと昔の道具」展示を1月～3月期に行ったほか、スタディサロンのクイズやビデオプログラムを来館者自身のモバイルで使用できるリニューアルを行い、多言語化解説のコンテンツとして解説アプリ「ミュージズナビ」を導入しました。

(1) 保守点検・維持管理

展示資料・ジオラマ類・映像機器・展示装置類の保守点検を実施した。また展示資料の清掃を実施した。

(2) 常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行った。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示ミニ展示の実施	1月～3月期に、市内小学校3年生の見学に対応しスタディサロンに「ちょっと昔の道具」展示を行った
デジタルサイネージの導入	6月からの再開館に合わせて、「茅ヶ崎城址公園(中世)」と「東海道と横浜の宿場(近世)」の、スライド上映による解説を新規に設置した。
多言語化解説のコンテンツ導入	解説アプリ「ミュージズナビ」を導入し、英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語での解説を可能とした。

(3) スタディサロンのプログラムリニューアル

スタディサロンの情報機器で提供している Q&A クイズ、ビデオライブラリのプログラムをリニューアルし、来館者自身のモバイル端末で利用するサービスを開始した。

(4) 常設展示室観覧者の推移 (令和 2 年度目標数 65,100 人) 目標数はコロナ禍以前に算出した数値

	有料観覧者 (人)					無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1 日平均 入館者(人)
	大人	市内在住 65 歳以上	高大	小中	計					
2 年度	9,943	3,624	139	2,168	16,474	10,755	27,229	75.7%	254 日	107
元年度	4,037	—	582	3,690	8,309	27,627	35,936	52.6%	108 日	332
30 年度	10,334	—	1,348	6,148	17,830	50,524	68,354	96.2%	310 日	220

4 企画展事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号②)

常設展示を補うテーマや、新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。関連事業は感染症対策を踏まえて、実施しました。

(1) 企画展・特別展の実施

※目標数はコロナ禍以前に算出した数値

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「明治・大正ハマの街 新市庁舎建設地・洲千島遺跡」	大人 500 円 高大 300 円 小中市内在住 65 歳以上 100 円	7,468 人 (目標数) 26,800 人 1 日あたり 76 人	8 代目横浜新市庁舎の完成を記念して開催した横浜都市発展記念館・横浜開港資料館・当館による 3 館連携展示で、統一した広報を実施した。(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターの所蔵資料・調査成果を活用し、また横浜市総務局の新市庁舎関係資料を借用するなど、関係機関からも協力を得た。 当館では初めての近代考古学をテーマとした展示であり、資料を多く、解説は控え目にするこことにより実物に目を向けてもらえるよう努めた。また学校団体の見学を見据えて観覧スペースを広く取るようにした。 新型コロナウイルスの影響で、会期の変更を余儀なくされた(4/1~7/5→6/2~9/22)ほか、ハンズオン展示を 2 種と、講座・講演会・遺跡散歩はすべて取りやめざるを得なかった。しかし、SNS や動画配信を行うことで多くの人アプローチできるように努めた。 関連書籍『明治・大正ハマの街』販売 198 冊
企画展「日本の古布 (仮題)」			新型コロナウイルス感染症により、開催準備ができない状況となり、共同開催の神奈川県立歴史民俗学館と協議のうえ、翌年に延期することになった。
企画展「俳優緒形拳と	一般	7,611 人	横浜在住で戦後を代表する俳優緒形拳が遺した台本や

その時代—戦後大衆文化史の軌跡—	500円 高大 300円 小中学生、市在住 65歳以上 100円	(目標数 12,650人 1日あたり 136人	パンフレット類、彼の創作した作品など約 300 点を展示し、緒形の足跡をたどるとともに、戦後日本の芸能史、大衆文化史を俯瞰した。 関連書籍 『戦後大衆文化史の軌跡』 販売 618 冊 関連事業 トークショー 1回 84人 講座 1回 63人 展示解説 4回 126人
横浜市指定・登録文化財展 令和2年12月16日(水)～令和3年1月11日(月祝)	一般 300円 高大 200円 小中、市在住 65歳以上 100円	843人 (目標数 2900人)	今年度はコロナ禍により文化財の指定がなかったため、長寿命化工事による休館で紹介できなかった令和元年度指定文化財と、平成3年(1991)に指定された「上矢部富士山古墳出土品一括」のうち令和元年に再整理が完了した埴輪を紹介した(「大空を彩るアート-凧で旅する日本と世界-」展と同時開催)。 展示解説 4回 32人
大空を彩るアート-凧で旅する日本と世界- 令和2年12月16日(水)～令和3年1月11日(月祝)	同上	同上	横浜市指定・登録文化財展と同時に開催した。博物館で整理を進めている金子富夫凧コレクションから日本と世界の凧 160 点余りを選び、天井付近の空間を活用し、大空を舞う凧をイメージできるような展示とした。 和凧づくり 1回 5人 展示解説 2回 21人
特別展「横浜の仏像—しられざるみほとけたち—」 令和3年1月23日(土)～3月21日(日)開館日数 50日	一般 1,000円、大/高 700円、中 / 小 500円、シニア 500円	13,192人 (目標数 17,950人) 1日あたり 263.8人	本事業は横浜市域所在の諸仏を紹介する初の展覧であり仏教美術を通し市域の歴史・文化といった地域の文化資源の魅力にふれる機会を提供し、そのポテンシャルを知っていただく展示となったと考える。本活動の企画意図である、横浜市が仏教彫刻調査を本格的に開始してから約 50 年の節目の集大成を、横浜の仏像というテーマをもとに総合的・体系的に紹介することを十分に達成できたといえる。従来の来客僧以外に、20～30 代の年齢層の来館も多くみられ SNS やプレス配信会社を利用した広報活動の成果ととることができる。またリピート割引を実施し入館者の増加を図った。有料入館者数や図録販売数は当初見込みを大幅に上回り、1100 万円を超える事業収入を計上した。 関連事業 展示解説 4回 287名 講演会 3回 256名 特別講演会 1回 180名

			れきし散歩 1回 ※荒天により中止
--	--	--	-------------------



企画展「緒形拳とその時代」内覧会



特別展「横浜の仏像」集荷作業

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者 (人)					無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	市内在住 65歳以上	高大	小中	計					
2年度	11,973	6,202	589	779	19,543	9,571	29,114	96.7%	228日	96
元年度	3,559	—	375	1,892	5,826	24,300	30,126	48.4%	94日	320
30年度	8,620	—	845	4,034	13,559	48,608	62,167	92.8%	248日	251

(3) アウトリーチ事業

館外で展示等を行うアウトリーチ事業を実施した。

名称/開催日	会場	事業内容
つづきブックフェスタ 2020 関連企画ミニ展示 「古代の村と祈り～蕨 根不動原遺跡を中心 に～」 11/10 (火) - 11/30 (月)	都筑図書館	つづきブックフェスタ 2020「つづき再発見～タイムトラベル 過去・現在・未来～」関連企画・都筑図書館開館 25周年記念 講演会「古代の村と祈り～蕨根不動原遺跡を中心に～」(都筑 図書館・都筑区役所・TMEK(都筑図書館から未来を描く協働 の会)共催)に開催協力・出講し、同名の関連展示を図書館で おこなった。 講演会 11月21日
横浜の中世城郭 12/19 (土)・20 (日)	お城 EXP02020 パシフィコ 横浜新館ノー ス	港北区および埋蔵文化財センターと連携して、お城 EXP02020(パシフィコ横浜新館ノース)にブースを設け、小机 城・茅ヶ崎城などの市域の中世城郭について展示を行った。今 年度新たに制作した御城印をはじめとする城郭グッズの販売 を行った。



都筑図書館講演会



お城 EXP02020 「横浜の中世城郭」

5 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらう各種の歴史講座や体験学習、また市民や地域と連携したさまざまな事業については、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、試行や実施に取り組みました。

（1）歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
ナイトミュージアム	30人	閉館後の博物館と遺跡公園を探検し、普段とは異なる博物館の魅力を知ってもらう講座。 内容は、チボリ兄弟舎の紙芝居、夜の遺跡探検、夜の常設展示室 写メラリー。 8/22(土) 会場：講堂、常設展示室、遺跡公園 参加料：一般 1000 円 中学生以下 600 円
歴史講演会 11/28 (土)	89人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、歴史講演会を開催した。 演題「ホンモノより価値のあるニセモノたち」 講師：西谷大氏（国立歴史民俗博物館館長） 会場：歴史博物館 講堂 参加料 500 円
実験考古学講座 「縄文土器づくり」 2/6(土) ～3/21(日)全5回	3人	実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルにした土器づくり講座を行った。 5日目の実験は4日目の野焼きと同時並行で実施した。 会場：工房・遺跡公園体験広場 参加料：5,000 円
特別講演会 2/6 (土)	180人	年に一度、博物館の開館日（1/31）を記念し、各界の一流の専門家を迎えて行う特別講演会を実施した。今年度は特別展「横浜の仏像」の関連企画を兼ねて開催した。 演題「手を合わすころ～仏教文化と横浜の仏像」 講師：横田南嶺老師（臨済宗円覚寺派管長） 会場：横浜市開港記念会館 参加料 1,000 円

はじめての古文書オンライン 2/5(金)～3/26(金) 毎週金曜日 全8回	28人	横浜市域の資料を用い、初心者向けの古文書入門講座を開催した。コロナ禍に対応し、在宅でも参加できるオンライン講座として開催した。オンライン形式による開催は、参加者から好評を得、今後の講座の開催形式の可能性を広げることができたと考える。 参加料：5,000円
講師派遣		各区や地域の郷土史団体の講座・講演会等に職員を派遣した。 7/11(土)「鶴見の文化財－美術を中心に－」 鶴見歴史の会 7/26(日)「横浜歴史散歩アラカルト」 茅ヶ崎歴史散歩の会 8/8(土)「生麦のくらし、漁業、昔話」 鶴見歴史の会 11/7(土)「幻の画家・笠木治郎吉の絵の秘密に迫る」かさぎ画廊 2/5(金)「まち歩きボランティアガイド養成講座」 横浜ボランティアガイド協議会(新型コロナウイルス感染防止のため中止) 2/12(金)「地誌に見る 青葉のあゆみ歴史探訪講座2020」青葉区郷土史の会 2/12(金)「横浜の仏像都市域の文化財調査」アートドキュメンテーション学会

(2) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
当日参加型れきし工房		各プログラムで異なる	博物館1階のミュージアムショップでオリジナルものづくりキットを購入すれば、体験学習室において活動支援ボランティアのサポートを受けながら、ものづくりの体験ができる事業。 今年度は新型コロナウイルス流行により、上記の形式での実施は見送った。その代わりに、モニターを募集し、感染対策をしつつ安全に実施するための試行を日時限定で実施した。 8/29(土) 勾玉(滑石) 10人 8/30(日) 勾玉(滑石) 10人 10/24(土) あじろ編み 6人 10/25(日) あじろ編み 8人 参加者(モニター)合計 34人 会場：体験学習室
事前申込れきし工房 (年度通算1日1回)	5人	各プログラムで異なる	小学生から大人までを対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを開催した。今年度は新

			型コロナウイルス流行のため、和風作りのみの開催となった。 12/19 (土) 和風 5人 会場：工房 参加料：1,500円
竪穴住居に泊まろう			小学生を含む家族を対象に竪穴住居に宿泊する体験教室。コロナ禍のためやむなく中止した。
体験広場野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、昨年度の実験考古学講座や会の事業として制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 11/14 (土)、3/20 (土)

(3) 集客イベント等

項目	開催日	参加者数	事業内容
ラストサタデープログラム	毎月最終土曜日 (4回)		土器パズルやスタンプ、火おこしなど、接触感染のリスクが高いプログラムであったため、やむなく中止した。
夏休み紙芝居	8/1・2・8・9・10・ 15・16・29	557人	プロジェクターに紙芝居の画面を拡大投影し、間隔をあけた椅子の配置として、感染症対策をしながらの街頭紙芝居(複製)の実演を夏休み期間中の土日祝に行った。
チボリ兄弟舎紙芝居	8/22(土)・23(日)	135人	夏休み紙芝居に合わせ、チボリ兄弟舎の紙芝居を実施した。
おもしろいぞ!紙芝居	下半期の毎月 最終土曜日 (6回)	354人	夏休み紙芝居の方法を取り入れ、当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、複製の実演を行った。



横浜ビー・コルセアーズファンミーティング



雅楽コンサート (大塚遺跡)

(4) 地域や多様な組織との連携（共催事業、協力事業、協賛事業、後援事業、受託事業等）

項 目	開催日	事 業 内 容
横浜ビー・コルセアーズ ファンミーティング 2020	9/19（土）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 プロバスケットボールBリーグの開幕を前に、スポーツ文化が地域貢献に果たす意義をファンの集いで共有した 会場 講堂 参加者：横浜ビー・コルセアーズ ファンクラブメンバー 33人
横浜ビー・コルセアーズ パブリックビュー イング in 歴博	10/2（金）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 横浜ビー・コルセアーズのシーズン開幕戦（vs 新潟アルビレックスBB）のパブリックビューイング 会場 エントランスホール 参加者：横浜ビー・コルセアーズ ファンクラブメンバー 30人
Yae ON LINE LIVE 2020 半農半歌手Yaeの歌語り ～満月に祈りを～ Play to full moon	10/4（日）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 都筑民家園を会場にしたコンサート。コロナ禍のため無観客、オンラインで実施 会場 都筑民家園 出演者：歌・語りYae ギター 小野晃 オンライン参加者：71人
古の丘 古の音～二千年 前の営み 千年の響き～ （コンサート）	10/31（土）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 大塚遺跡を会場に雅楽のコンサートを実施した。 出演者：笙 真鍋尚之、豊剛秋、永井大志 箏 春日るり子 笛 岩崎達也、間東優香 来場者数：47人
花あそび 上野雄次 花いけ展「さ さやきを聞いて」	10/31/（土）～ 11/1（日）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 都筑民家園全体を会場に活花のパフォーマンス、その後の展覧会開催 出演者：花道家 上野雄次 会場 都筑民家園 来場者：292人
アート&クラフツガ ーデン（オンラインシ ョップ）	11/10～23	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 アーティストや身障者の作品販売。昨年まで都筑民家園を会場に実施していたが、コロナ禍の実情を踏まえオンラインで行った。

		参加出展者 50人 アクセス数 925 売り上げ 78件
関家住宅の公開	11/28 (土)	横浜市教育委員会生涯学習文化財課に協力し、国指定重要文化財「関家住宅」の公開を行った。当館学芸員が観覧者へ解説を行った。



インド舞踊と古典音楽「掌の上」(スタディサロン)



国重文関家住宅の公開 学芸員解説

(5) エントランスホールコンサート等の実施

当館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業によるコンサートなどを、エントランスホールやスタディサロンを会場として開催した。スタディサロンでの本格的な舞踏・音楽イベントは初めての試みであった。

事業名/開催日	事業実績等
特別展 横浜の仏像 関連イベント 掌の上～インドの神像が導く歴史博物館の夕べ～ 2/14 (日) スタディサロン	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 出演者：東インド古典舞踊：安延佳珠子 北インド古典音楽： シタール 武藤景介 タブラ 池田絢子 来場者数： イス席 25 人、 立見 8 人 アーカイブ参加者数： 80 人 ・アーカイブ配信再生回数： 317 回 (2 本合計) ・クラウドファンディングによる運営資金獲得額： 571,000 円
特別展 横浜の仏像 関連コンサート 蜘蛛の糸 みほとけのうた 3/7 (日) エントランスホール	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 出演者： ソプラノ・朗読 宮地里実 ピアノ 吉田純 クラリネット 小嶋慶子 (賛助) 来場者数： 30 人 ライブ・アーカイブ配信参加者： 68 人 ライブ・アーカイブ配信回数： 484 回

(6) かやぶき屋根プロジェクト

大塚・歳勝土遺跡公園内にある竪穴住居について、定期的、長期的なメンテナンスを行うため、「材料である茅の確保から自分たちでできる修繕まで」を目標として平成 29 年度から事業を開始した。平成 30 年度からは文化庁の助成金を継続して受け、実施している。令和 2 年度は、以下の事業を実施した。

項 目	実施日	参加者数	事 業 内 容
ボランティアの募集	年間を通じて	15 名	チラシを作成し、ボランティアの募集を行った。 15 名のエントリーがあった。
復元建物の修繕	9 月 20 日	9 名	大塚遺跡での修繕
復元建物の修繕	10 月 31 日	7 名	講師の研修を受けながら修繕を実施
復元建物の修繕	11 月 22 日	8 名	大塚遺跡での修繕
朝霧高原茅場での茅刈り	12 月 12 日	9 名	朝霧高原の茅刈り研修と茅刈り、4 名が研修を受けた。
復元建物の修繕	1 月 31 日	1 名	担当者が復元建物の清掃を実施し、その様子を YouTube に配信した。
シンポジウムの実施	2 月	4 名	他団体を招いて計 4 団体による茅や茅葺屋根の活動に関するシンポジウムを無観客で実施した。その様子は YouTube に配信し、レジュメやパワーポイント資料は許可を得て当館 HP 上で確認できるようにした。
朝霧高原茅場での茅刈り	3 月 14 日	7 名	朝霧高原の茅刈り研修と茅刈り、1 名が研修を受けた。
普及啓発絵本の作成	3 月		「かやぶきやねができるまで」と題した絵本を作成した。
報告書の作成	3 月		「あつまる茅刈り人たち」と題した令和 2 年の活動報告書を作成した。

(7) ボランティアの活動支援

項 目	事 業 内 容
展示解説ボランティア	市民ボランティアによる小中学校団体及び一般来館者への、常設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドは、新型コロナウイルス感染拡大に対する緊急事態宣言の発出を受けて、常設展示室は 4/1～7/30 まで、遺跡公園などの屋外は熱中症予防対策もあり 8/31 まで中止した。その後は各時間帯 2 名までと活動人数を減らし、徐々に活動を再開したが、2 度目の緊急事態宣言が出たため 1/9～3/22 は再び活動を中止した。 ガイド内容は、マスク着用・手指消毒の他、受付テーブルの飛沫防止シートの設置や、フェイスシールドの配布、マイク機器の消毒など、コロナ対策をした

	<p>上で、来館者からのガイド希望があった場合に行い、学校団体へのガイドは、可能な限り小グループに分けて対応をした。</p> <p>①ガイド登録者数：71人</p> <p>②基本ガイド時間 遺跡公園 小学校6年団体 約45分間 常設展 見学者の要望に応じて実施</p> <p>6/2 開港記念日ガイドや遺跡フェスタでの特別ガイドは中止した。</p>
活動支援ボランティア	<p>学校団体来館時の火おこし疑似体験や、ラストサタデープログラム、集客イベントなどの事業支援を目的とした活動支援ボランティア活動は、接触感染リスクが高い活動が多いことなどから縮小せざるを得ず、今年度は感染対策をしつつ安全に実施する当日参加型れきし工房の試行に協力をいただいた。</p> <p>①登録者数：50人</p> <p>②活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・れきし工房試行 <p>8/29（土） 勾玉（滑石） 10人 8/30（日） 勾玉（滑石） 10人 10/24（土） あじろ編み 6人 10/25（日） あじろ編み 8人 参加者合計 34人</p>
展示解説ボランティア 研修の実施	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修活動を中止した。



遺跡ガイドボランティア



茅ヶ崎城愛護会勉強会（研修室）

展示解説ボランティア活動実績

項 目	令和2年度		令和元年度		平成30年度		
	遺跡	常設	遺跡	常設	遺跡	常設	
活動	ガイド実施日数（日）	88	130	250	106	301	305
	解説回数（回）	169	145	891	131	1,105	678
	1日平均解説回数（回）	2.6	1.1	3.22	1.25	3.54	2.21

実績	参加者数(人)	1,873	342	19,605	328	23,155	2,120
	団体対応(件)	20	1	215	2	272	22
	団体のうち学校数(校)	17	—	194	—	220	—

(8) 学校連携事業の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から学校団体見学の受け入れを1日1校に変更したが、小学校4年の「吉田新田」や小学校3年の「昔の暮らし」の訪問授業は例年通り実施した。また金沢区および港北区から委託を受け、訪問授業を実施した。

事業名／開催日	事業内容等
6年生向け訪問授業 20校 2,070人	茅ヶ崎台小 124人、戸塚小 163人、鶴見小 112人 すみれが丘小 62、菊名小 149人、市ヶ尾小 121人 岸谷小 63人、品濃小 154人、新羽小 82人 中和田小 133人、都岡小 80人、鉄小 28人 川崎宮内小 142人、都筑小 128人、藤沢滝の沢小 101人 希望ヶ丘小 96人、南小 92人、荏田小 53人 寺尾小 119人、大田区南六郷小 68人
吉田新田訪問授業 延べ22校 2,183人 ※品濃小は2回実施	中山小 110人、北山田小 85人、新田小 120人 南山田小 133人、緑園東小 62人、中和田南小 59人 汲沢小 80人、今宿小 104人、荏田小 50人、 篠原小 111人、葛野小 78人、笹野台小 102人 根岸小 107人、芹が谷小 51人、牛久保小 90人 西寺尾第二小 111人、菊名小 153人、品濃小 119人 浦島小 96人、宮谷小 158人、日限山小 85人
年中行事訪問授業 延べ2校 380人	都田西小 190人 ※訪問授業を2回実施
学校資料室への訪問授業等 4校 410人	万騎が原小 52人、鶴ヶ峯小 103人、今宿小 100人 寺尾小 155人
金沢区委託 「むかし体験」訪問歴史授業 12校 778人	文庫小 63人、(於大道小) 能見台小 69人、大道小 70人、 釜利谷東小 68人、金沢小 79人、八景小 67人、 釜利谷南小 47人、並木中央小 48人、西金沢学園 83人、 六浦南小 70人(於大道小)、朝比奈小 41人、 高舟台小 73人(於大道小)
港北区委託 小机城址普及出張授業 1校 307人	城郷中学校 307校
出張土器づくり指導	令和2年度は依頼が1件も無かったため実施していない。
教職員対象の吉田新田学習会	新型コロナウイルス感染症流行のため、夏期休業中の財団に関わる市教委主催博物館活用研修をはじめ、市教委関係、小学校教育研究会関

	係の研修会も全て中止となりました。これらにともない「吉田新田の開発」の研修も見合わせました。
高校生・中学生研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科研究発表大会を実施し、審査員を派遣した。大会は新型コロナウイルス感染症流行のため、オンラインによる開催となった。 ・中学校社会科作品展・研究発表会は新型コロナウイルス感染症流行のため、開催が中止された。
学校団体の博物館見学申込システムの運用と開発	学校団体見学の予約校数が1日1校に対応するよう学校団体の博物館見学申込システムの改修を行った。

学校団体利用の推移

項 目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
学 校 数 (校)	47	278	361

うち小・中学校利用数

項 目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
学校数 (校)	46	262	330

(9) 関連団体との協働事業

当館では市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う関連団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施した。当館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体、また博物館の支援、博物館との協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」は、博物館と連携して定期的な活動を行っています。今年度はコロナ禍の影響で諸団体とも活動は大幅に制限されましたが、アフターコロナに繋がる活動を継続した。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として毎月2回の講座の開催。 今年度は緊急事態宣言発令などにより、4月～8月、2月は中止。 ・有志による「下読み会」の実施。 コロナ禍に対応し、オンライン会議システムを利用し、リモートで実施。武州金沢藩の目付日記（明治3年）の解読を行い、紀要にて成果を報告した。 ・講演会の実施 11/15（日） 当館講堂 講師：多和田雅保氏（横浜国立大学教授）「近世相武の町場と商人」 参加者 71人
「横浜古代史料を読む会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として月1回の『続日本紀』講読講座の開催 今年度は緊急事態宣言発令などにより、4月～8月、1・2月は中止。

「横浜縄文土器づくりの会」との協働	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、大幅に活動が制限された。 11/14(土) 令和元年度実験土器づくり講座の野焼き
「横浜さいかちの会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本書紀」を読む古代史料講読教室 4回 ・ハマウォーキング 11/9(月)「鶴見線ショートトリップ」 参加者 10名 <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「横浜の仏像」研修室トーク 2/24(水) 当館研修室 講師：吉井大門(当館学芸員) 参加者 12名
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会の実施 11/28(土) 当館講堂 講師：西谷大氏(国立歴史民俗博物館館長)「ホンモノより価値のあるニセモノたち」 参加者 89人 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜歴博サロン 3/11(木) 当館研修室 講師：小林光一郎(当館学芸員)「資料整理・妖怪研究」 参加者 21人

(10) 実習・研修の受け入れ

博物館実習は例年に比べて日数を減らし、感染症対策を徹底しながら実施した。社会研修等については申込がなかった。

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習などの受け入れ	博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 10名 6日間(8～11月)

(11) 広報広聴

項 目	事 業 内 容
広報	展覧会情報のほか、新型コロナウイルス感染拡大による開館情報・感染防止対策等の広報を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・当館ウェブサイト、SNSによる広報、情報発信 ・館外情報サイトへの情報提供 ・広報誌「博物館NEWS」の発行 ・全国博物館施設、市内公共施設、学校、関係機関に向けた広報

	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ各社への情報提供 ・博物館近隣の広報案内看板への掲示 ・センター北駅1番出口広告掲示板(8ヶ所)への掲示 ・広報よこはま等の市広報誌への情報掲載 ・新聞・ラジオ等マスコミやSNSへの有料広告 ・ラジオ番組への番組コーナー提供 <p>例年開催の区民まつり、センター北まつりなど地域イベントは中止となった。</p>
市民ニーズの把握	企画展アンケートをウェブフォームで実施
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、ガイドボランティアの募集等にインターネットを利用した催事申込システムを運用

(12) 出版

項 目	事 業 内 容										
リーフレット類作成	<p>歴史博物館催し物案内(年2回)</p> <p>貸出施設案内パンフレット</p> <p>学校向け利用申込案内パンフレット</p>										
出版物発行	<table> <tr> <td>横浜市歴史博物館ニュースNo.49</td> <td>8,000部作成</td> </tr> <tr> <td>No.50</td> <td>8,000部作成</td> </tr> <tr> <td>横浜市歴史博物館資料目録 第29集</td> <td>700部作成</td> </tr> <tr> <td>横浜市歴史博物館紀要 第25号</td> <td>800部作成</td> </tr> <tr> <td>横浜市歴史博物館調査研究報告 第17号</td> <td>700部作成</td> </tr> </table>	横浜市歴史博物館ニュースNo.49	8,000部作成	No.50	8,000部作成	横浜市歴史博物館資料目録 第29集	700部作成	横浜市歴史博物館紀要 第25号	800部作成	横浜市歴史博物館調査研究報告 第17号	700部作成
横浜市歴史博物館ニュースNo.49	8,000部作成										
No.50	8,000部作成										
横浜市歴史博物館資料目録 第29集	700部作成										
横浜市歴史博物館紀要 第25号	800部作成										
横浜市歴史博物館調査研究報告 第17号	700部作成										

6 よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業(定款第4条第1項第1号②)

文化庁助成の終了を受け、「よこは地域文化遺産デビュー・活用事業」はクラウドファンディングを用いるなど自立的運用を目指しました。またコロナ禍の制約の中でイベントのオンライン配信などを試みしました。館内、遺跡公園、都筑民家園を会場に多彩な事業を展開するとともに、市内のプロバスケットボールチーム(横浜ビー・コルセアーズ)とスポーツ文化の地域貢献を目指し、チームの魅力を高める活動を行いました。

項 目	事 業 内 容
① 地域文化遺産交流拠点事業	<p>地域文化遺産交流拠点事業としては、引き続き横浜市認定歴史的建造物中山恒三郎家店蔵の保管文化財の整理を行った。その成果の一部は当館の『紀要』で報告した。学校内歴史資料室については、学校資料の整理を着実に続けるとともに、整備した資料室の運営に携わる学校・地域関係者の情報共有をはかった。また、昨年度は大手企業の協力を得て、B級文化財とも言える未指定文化財をモチーフ</p>

	<p>とした未就学児童向けのペーパークラフトキットの開発、製品化を果たし、中核館近隣保育園等に配布することができた。</p> <p>新たな試みとしては、スポーツ文化を通して地域貢献を果たす目的から、同地域を拠点とする横浜ビー・コルセアーズの魅力を博物館の施設から発信し高める活動を行った。その後、財団とビー・コルセアーズとで同じ趣旨を目指す協定を締結した。</p>
② 観光拠点化事業	<p>中核館および大塚・歳勝土遺跡公園や都筑民家園を舞台としたユニークベニューイベントを実施したが、コロナ禍で中止になったり、オンラインでの実施もあった。中核館では特別展「横浜の仏像」関連企画として、インドの古典舞踊と古典音楽の夕べ、同じく仏教音楽のコンサートを実施、どちらもライブとオンラインの併用を試みた。大塚遺跡では雅楽のコンサートを実施。都筑民家園では、無観客（オンライン）のコンサートを始め、昨年に引き続き活け花パフォーマンス、アート&クラフツガーデン（アート作品販売、オンライン）を実施した。実施にあたっては、育成に努めている企画運営団体が担当し、実行委員会がこれを支援したが、事業資金の一部をクラウドファンディングで賄った。</p> <p>アウトリーチ活動としては、日本大通り・横浜開港資料館・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館を会場に、パフォーマンスイベント「スタチュー・ミュージアム」を開催した（ユーラシア文化館事業報告参照）。このうち、パフォーマンス「赤い靴の女の子」は昨年度に当事業で制作したもので、今回が初めての公開となった。</p>
③ 広報・情報発信事業	<p>広報・情報発信機能面では、本事業の公式ウェブサイト・SNS を昨年度に続き運用した。</p> <p>ウェブサイト： https://culturalheritage.yokohama-history.org/ Twitter：https://twitter.com/CHofYokohama</p>

7 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
収蔵資料等データ入力	<p>図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。</p> <p>データ入力件数 2,503 件</p>
映像資料の公開	<p>モバイル端末を利用してスタディサロン内での横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開した。</p>

文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信や、サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス（セッション）数 239,220件
ツイッターを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用した博物館展示情報や解説、催し物など多岐にわたる活動情報を発信した。 ツイート数 423、ツイートインプレッション 1,250,651、プロフィールへのアクセス 52,464、フォロワー増 787

8 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。6月からの再開館にあたり、新型コロナウイルス感染症対策として、来館者の検温・手指消毒の徹底、万が一の際の連絡先の把握、定期的な館内消毒、各受付の亚克力板の設置、各種掲示を作成し、日本博物館協会のガイドラインに則り運営しました。

（1）施設改修工事

今年度も前年度に引き続き、横浜市による外壁改修工事が継続実施された。4月・5月は新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言発令により臨時休館していたが6月より再開館し、12月までは通常開館しながらの工事であったため、工事期間中は館内環境維持に配慮しながら工事業者との工程確認・調整、また近隣への配慮等にも努めた。

（2）来館者対応業務

長期休館後の再開にあたっては、さらなる市民サービスと効率性の向上を図るため、これまでの受付等の配置と機能の見直し、キャッシュレス決済に対応するレジの導入を行った。来館者と受付スタッフとの接触機会を減らすためオンラインも導入した。

事業名／開催日	事業内容等
キャッシュレス決済の導入 令和2年6月2日（土）～	利用者の利便性向上をさせるため観覧料金の決済手段として現金の他にクレジットカードや交通系ICカードにも対応出来るレジを導入した。キャッシュレス決済の導入が来館者と受付スタッフの接触機会を低減させ、新型コロナウイルス感染拡大防止対策にもつながった。
時間制来館者システムの導入 令和2年10月3日（土）～	文化庁の新型コロナウイルス感染症対策の補助金を活用し、来館者の混雑緩和を図るため時間制来館者システムを導入した。

（3）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕

	<p>講堂・研修室の貸出については、新型コロナウイルス感染症対策を実施し、利用人数の制限を設け、9月から再開した。</p> <p><主な修繕></p> <ul style="list-style-type: none"> ・泡消火設備 ウイングポンプの交換 <li style="padding-left: 20px;">空気調和機 錆止め塗装工事 ・特別収蔵庫 送風機修繕工事 他
--	--

(4) 講堂・研修室利用の推移

項 目		令和2年度	令和元年度	平成30年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	2,527	15,930	20,980
	利 用 件 数 (件)	33	119	212
	うち有料貸出件数 (件)	29	13	45
研 修 室	利 用 者 数 (人)	368	2,362	6,598
	利 用 件 数 (件)	39	83	231
	うち有料貸出件数 (件)	25	52	133

(5) 歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		令和2年度	令和元年度	平成30年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設 (人)		40,593	52,506	57,581
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	39,057	47,999	55,081
	工 房 (人)	1,536	4,507	2,500

9 収益事業（定款第4条第1項第2号）

ミュージアムショップ、駐車場、館内の自動販売機設置による収益事業を行いました。ミュージアムショップは今年度より受付業務の一環とし、更にキャッシュレス決済対応レジの導入により、クレジットカードや交通系 IC カードでも商品購入が可能となりました。また、令和3年1月23日、企画展「横浜の仏像」会期初日に合わせてオンラインショップも開設しました。

(1) ミュージアムショップ

- ・新商品として、既にある小机城と茅ヶ崎城跡の御城印に加え、榎下城の御城印を作成した。
- ・絵葉書、クリアファイル、れきし工房キットなどのオリジナル商品のほか、企画展図録などの刊行物や各種商品の販売を行った。
- ・オンラインショップを開設し、企画展図録などの刊行物や、れきし工房キット、御城印などのオリジナル商品の販売を行った。



「緒形拳とその時代」展オリジナルグッズ



御城印（「小机城」・「榎下城」「茅ヶ崎城跡」）

(2) 駐車場

来館者の利便性を図るべく、歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。(休館中は休止)

近隣の商業施設の増加に伴い利用が減少している状況を改善するため、所管局と調整し、令和3年度から駐車場管理会社に委託しコインパーキングとする準備を進めた。

(3) 自動販売機

施設利用者の利便を図るため、飲料水の自動販売機を設置した。キャッシュレスに対応するため交通系 IC カードでも購入できる機種を導入した。また利用者の要望により飲料種類の変更等を行った。

<各事業の推移>

項 目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
ミュージアムショップ売上 (千円)	15,806	5,078	9,786
駐車場利用台数 (台)	4,498	1,862	5,473
駐車場料金収入 (千円)	1,555	847	2,270
自動販売機手数料収入 (千円)	58	120	328

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
1 資料収集保管事業	資料の寄贈・寄託、購入による資料収集活動を着実に進め、収集資料の整理・保管・データ入力を進めた。保管業務に関しては IPM を強化し資料の保全につとめた。また、昨年に引き続き川崎市市民ミュージアムの資料レスキューに職員を派遣した。	A

2 調査研究事業	基礎資料研究 3 本、テーマ研究 6 本、市民共同研究 3 本、連携調査研究 2 本のほか、令和 3 年度実施予定企画展の調査や資料の基礎整理に予定通り取り組み、調査研究報告には港南区笠原家資料の再整理の成果を、紀要には調査成果 3 報告を掲載し、刊行した	A
3 常設展事業	日本語を含めた 4 か国語に対応する多言語アプリの導入、スタディサロンで提供していた Q&A（歴史クイズ）、市域文化財・歴史関係映像コーナーを、来館者自身のスマホやタブレットで利用できるシステムへの切り替え、デジタルサイネージの導入などにより、魅力の向上を図った。また市内小学校 3 年生向けに、「ちょっと昔の道具」展を 1 月～3 月期にスタディサロンで開催した。	A
4 企画展事業	企画展「明治大正ハマの街」では休館中に SNS を通じての展示資料解説、会期中には解説動画の発信を行った。企画展「俳優緒形拳とその時代」、特別展「横浜の仏像」など、コロナ禍で沈滞・委縮する雰囲気の中で多くの市民の関心に応える充実した内容の展示を展開した。	S
5 企画普及事業	コロナ禍で制限を受けながらも、感染症対策を実施して対面での各種講座や市民協働による展示解説ボランティア、関連団体との共催事業といった活動を展開しました。また、古文書講座は双方向オンライン講座として実施し、参加者から好評を得た。	A
6 よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業	文化庁助成の終了を受け、「よこは地域文化遺産デビュー・活用事業」はクラウドファンディングを用いるなど自立的運用を目指した。またコロナ禍の制約の中でイベントのオンライン配信などを試みた。館内、遺跡公園、都筑民家園を会場に多彩な事業を展開し、文化遺産活用の幅を広げた。また市内のプロバスケットチームとともにスポーツ文化を通じての地域貢献を模索するとともに、チームの魅力を高める活動に協力した。この活動を踏まえ、財団は同チームの同趣旨の協約を締結した。	S
7 情報事業	SNS を積極的に活用し、情報発信を行った。展覧会情報など静的な情報の HP に対して、リアルタイム	A

	な情報発信が行える SNS の強みを活かし、館活動全般を紹介した。	
8 施設維持事業	6月からの再開館にあたり、日本博物館協会のガイドラインに則した新型コロナウイルス感染症対策を実施し、来館者が安全に利用できるよう施設管理・運営に努めた。 また、さらなる市民サービスと効率性の向上を図るため、受付等の配置と機能の見直し、キャッシュレス決済に対応するレジの導入を行った。来館者と受付スタッフとの接触機会を減らすためオンラインチケットも導入した。	A
9 収益事業	ミュージアムショップ事業は、新商品の開発と懸案事項であったオンラインショップを開設することができた。その効果もあり、今期は売上 1500 万円と、一昨年度の 1.5 倍とすることが出来た。 駐車場事業は、利用が減少している状況を改善するため、所管局と調整し、令和 3 年度から駐車場管理会社に委託しコインパーキングとする準備を進めた。	A

3 開港資料館事業

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館のなかスタートし、コロナ禍でのあらたな館の活動を模索する一年となりました。

再開館は 6 月 2 日の開港記念日からとなりましたが、再開後の企画展は、前年度末に臨時休館となって終了した横浜市新市庁舎完成記念企画展「町会所から市役所へ」をアンコール開催し、第 2 回企画展示「コスモポリタンたちの足跡」では、これまで当館が収集してきた欧米外国人旧蔵の写真アルバムとその関係資料をもとに、幕末から戦後にかけての横浜外国人社会を支えた人々の歴史を紹介しました。

第 3 回企画展示「レンズ越しの被災地、横浜」では、あらたに寄贈された「西野写真館旧蔵関東大震災ガラス乾板写真」をもとに、ガラス乾板に記録された鮮明な画像から、関東大震災における横浜の被災状況を紹介しました。今年度の資料収集事業の大きな成果であるガラス乾板写真は、メディアにも大きく取り上げられました。そのほか今年度の収集資料から内田憲一家文書、宮田吉秀家文書について、常設展示室でのミニ展示や館報『開港のひろば』で内容を紹介しました。

調査研究事業では、幕末から明治・大正期の各テーマにもとづいた基礎的調査研究に加えて、企画展示に向けた資料調査・研究をおこない、その成果は当館紀要および館報『開港のひろば』で報告しました。また財団諸施設や外部研究者との連携研究会も、適宜オンライン開催を交えて実施しました。

令和2年度はコロナ禍により、横浜セントラルタウンフェスティバル Y161 などの大規模イベントが中止となり、展示解説など対面の普及事業も中止せざるを得ませんでした。ウィズコロナ時代の普及事業として、企画展示ごとに解説動画を製作して YouTube チャンネルで公開し、あらたな資料館利用者の獲得につとめました。また秋には、ユーラシア文化館が主催する横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムの会場として旧館と中庭を提供し、指定文化財の建物を活かした普及事業を実施しました。

そのほか来館者への対応として、受付での接触機会を減らし、館内に密な状況を作らないために、オンラインチケットによる事前予約システムを導入しました。また市内 65 歳以上の入館料が改定されたことを受けて、毎月第 2 水曜日を「濱ともデー」と位置づけて対象者を入館無料とし、サービス向上に努めました。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

(1) 資料の収集・管理・公開

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 8 件 597 点 寄託 6 件 23 点	主な収集資料：堀正義旧蔵文書、内田憲一家文書、西野写真館旧蔵関東大震災ガラス乾板写真
資料の購入	32 件 75 点	主な収集資料：横浜貿易新報休刊・廃刊に関する声明書、フランスの極東問題 1900～1940、駐日英国公使パークス・英国外務次官ハモンド往復私信幕末期編
古文書のマイクロ化ほか	2 件	主な複製（マイクロ撮影）資料：宮田吉秀家文書、吉澤武彦家文書
資料の分類・整理	古文書など 約 1,000 点	中山家を中心に収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類・整理した。
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 535 人 コピー枚数 8,799 枚	日本語・外国語新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
資料のデジタル化	古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料のデジタル化を行った。 主な資料：小笠原家文書の絵図類（一部）など
複製資料の提供	提供件数 460 件 1,675 点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
実物資料の貸出	貸出件数 2 件	他の博物館（国立歴史民俗博物館・品川区立品川歴史館）へ原資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (R2.4~R3.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)
政府資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)
海外資料 (点)	— (—)	— (1)	— (—)	— (—)	— (1)	15,234 (15,234)
文書・記録 (点)	2 (1)	53 (1)	564 (424)	23 (—)	642 (426)	85,250 (84,608)
新聞資料 (点)	— (—)	7 (2)	— (—)	— (—)	7 (2)	9,955 (9,948)
絵画・写真等 (点)	— (—)	10 (3)	33 (—)	— (1)	43 (4)	33,670 (33,627)
コレクション (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	51,408 (51,408)
文献資料 (点)	73 (68)	— (1)	— (—)	— (—)	73 (69)	58,356 (58,283)
合 計	75 (69)	70 (8)	597 (424)	23 (1)	765 (502)	271,861 (271,096)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製資料の提供実績

項 目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
出版社 (一般書・教科書・雑誌)、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	460件	479件	511件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
閲覧室利用者数 (人)	535	1,780	2,040
複写申込件数 (件)	365	903	1,080
複写枚数 (枚)	8,799	23,525	23,935
レファレンス件数 (件)	1,507	1,975	2,251

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
環境調査	収蔵資料の汚損の予防のため、害虫の発生状況や館内環境の調査を実施した。5回/年

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫 (310 m ²)	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	器物資料、文献資料などの収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について、各テーマに基づいた調査研究を実施しました。また財団諸施設との連携研究事業、外部研究者との共同研究事業も継続して実施しました。

（1）基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
建築・土木遺構に基づいた横浜の都市形成に関する研究	<p>①館蔵建築資料から横浜市開港記念会館（国重要文化財）の設計青焼図面 46 点の再整理をおこない、今後の公開に向けてデジタル化を進めた。</p> <p>②新港 9 街区での発掘調査に関して、発電所・荷揚げ場等の検出遺構についての文献調査と現地確認調査をおこなった。</p> <p>③本郷町ガス山公園内の煉瓦造構造物（市登録歴史的建造物）について、補修工事に向けての現地確認調査をおこなった。</p> <p>④横浜ノースドック内の倉庫群について、歴史的評価に向けての現地確認調査と文献・史料等の調査をおこなった。</p> <p>⑤野毛山公園内の「野毛のつり橋」（柳宗理設計）について、歴史的建造物の登録に向けた関係資料調査をおこない所見をまとめた。</p>
横浜近代欧米関係史	<p>①館蔵海外関係資料から横浜ゆかりの欧米外国人が所蔵していたアルバムの分析をおこない、その成果をもとに令和 2 年度第 2 回企画展示「コスモポリタンたちの足跡」を開催した（企画と展示図録執筆は令和元年度に実施済み）。</p> <p>②当館紀要第 37 号（令和 3 年 3 月刊）に、「〈史料紹介〉幕末の横浜イギリス駐屯軍士官の書簡（3） 第 20 連隊第 2 大隊スミス中尉の書簡（1865 年 10 月～66 年 7 月）」を執筆した。</p> <p>③外部機関（東京大学史料編纂所）とのイギリス外交文書他のデータ検索閲覧システム連携事業を継続実施した。</p> <p>④館蔵海外関係資料の現状調査をおこなった。</p>
横浜幕末維新时期社会・生活史	<p>①近世期全般にわたる日本社会とイギリスとの関わりを示す原資料を当館所蔵資料からリストアップし、写真撮影と調査研究をおこなった。成果は企画展「七つの海を越えて」、および関連出版物『図説日英関係史』、『開港のひろば』151～153 号で報告する。</p> <p>②イギリスの資料所蔵機関（イギリス国立海洋博物館、北アイルランド公文書館、グロスターシャー文書館）が所蔵する幕末期日本・横浜関係の原資料分析を実施し、『横浜開港資料館紀要』第 37 号に「イギリス所在幕末維新时期日本関係資料」として報告した。</p> <p>③横浜幕末維新史研究会と共同し、幕末維新时期横浜に関わる論考のリストアップ、幕末期横浜・開港都市に関わる最新の研究成果を収集した。</p> <p>④新型コロナウイルスの現代社会への多大な影響を鑑みて、幕末期の横浜における感染症の社会生活への影響を調査し、『開港のひろば』148 号に「特集 幕</p>

	末の感染症と横浜」として報告した。
横浜開港資料館のアーカイブ機能に関する研究	<p>①HPでの公開に向けて古文書目録のデータ入力およびPDF化を進めた。</p> <p>②閲覧利用者が閲覧室で古文書を自分で撮影できる体制を構築するため、他館の実施状況等を検討した。その結果、文書記録類（寄託資料を除く諸家文書と館蔵諸文書）、行政資料、新聞・雑誌、文献資料、個人コレクションの原資料に限り、閲覧利用者による自写ができる体制を構築し、2020年9月2日より運用を開始した。</p> <p>③館蔵資料の保存・整理状況を体系的に把握し、効率的なアーカイブ機能の構築方法について検討した。</p> <p>④デジタルアーカイブによる資料公開に向けて、情報公開機能・管理システム等に関する調査を行った。</p>
歴史情報の集積と研究	<p>①雑誌・新聞の整理作業をもとに、インターネット公開システム「情報館」で資料公開をおこなった。</p> <p>②宮田吉秀家資料等調査を実施し、その成果を『開港のひろば』150号に執筆した。</p> <p>③創刊130年を迎える横浜貿易新報社について資料調査とミニ展示の準備を進め、成果を『開港のひろば』148号に執筆した。</p> <p>④全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会を通じて、全国の歴史資料保存機関の現状と課題の把握をおこなった。</p>
横浜近現代政治社会史	<p>①鎌倉市西野写真館旧蔵の関東大震災ガラス乾板写真の調査研究を実施し、その成果をもとに第3回企画展示「レンズ越しの被災地、横浜—写真師たちの関東大震災—」を企画した。また、展示図録に関連論文を掲載したほか、『開港のひろば』148号・149号・150号・151号にも執筆した。</p> <p>②2019年1月12日に開催した展示記念シンポジウム「軍隊と横浜」の成果を基礎に、『横浜開港資料館紀要』第37号に特集「軍隊と横浜」をまとめた。特集記事の編集を行ったほか、明治期における横浜の軍用地問題について論文を執筆した。</p> <p>③公益財団法人横浜学術教育振興財団の研究助成を獲得し、関東大震災における災害情報の形成と展開について調査した。主に関西方面の図書館や文書館で行政文書、新聞史料の確認作業を行った。</p> <p>④中山恒三郎家資料について共同研究会とともに整理作業を進めた。また、京浜地域の移住者に関する調査研究を進めた。</p>

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
-----	----------------

戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業の実施。 *今年度は実施せず。 *都市発展記念館・市史資料室との連携研究事業
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究	磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（都市発展記念館蔵）の昭和戦後期の読解・分析をおこなった。 *都市発展記念館との連携研究事業
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	都市横浜の歴史空間を復元するため、関内地区の古地図と現代地図の重ね合わせの試行、関連する歴史地図のリストアップ等をおこなった。 *都市発展記念館との連携研究事業
小机地域(横浜市北部域)における総合的研究	横浜市北部域の新たな歴史像を描いていくことを目的とする同総合研究に参加。 *財団全体での連携研究事業

(3) 外部研究者との共同研究

項目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜関係海外資料調査研究会	館蔵海外関係資料の活用と補足所在調査をおこなう (2/2年次)	外部講師を招いて研究会を開催し、横浜に関わる日独関係の研究状況および新出資料の所在とアクセスに関する情報を共有した。
横浜幕末維新史研究会	幕末維新时期(おおむね1850~1870年代)の横浜の政治・経済・外交・社会情勢などについて、外部の研究者と共同で調査研究をおこなう (2/3年次)	①幕末維新时期の開港都市に関わる研究者を招請し、研究会を開催した。 9/5 「幕末期開港場長崎の「港湾秩序」」(報告者:吉岡誠也) ②幕末維新时期の横浜・開港都市に関わる研究者を集め、拡大例会「開港場の内と外」を開催(一部オンライン)した。 1/16 報告者:昆政明・中尾俊介・菊地悠介・吉岡誠也 ③当館所蔵の海運・船舶関係古写真悉皆調査の分析を実施した。 ④幕末維新时期の横浜に関わる専門論考のリストアップ作業を実施した。
中山恒三郎研究会	都筑区川和・中山恒三郎家文書の活用に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 (2/3年次)	①中山恒三郎家文書の整理及び目録作成(約1,000点) ②『横浜貿易新報』川和版の記事目録の作成(T2~T5)

		③中山恒三郎家関係者への聞き取り調査（オーラル・ヒストリー） ④研究会の開催 1/23 オンライン開催 研究報告「名簿家研究の動向と中山家の位置付けをめぐる考察」（太田知宏） 3/13 オンライン開催 研究報告「江戸菊の近代」（佐藤大悟）
京浜移住者研究会	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 （2／3年次） ※横浜文化賞奨励金活用研究補助事業として実施。	石川県の研究者・学術団体（加能地域史研究会）との共同シンポジウムの開催準備（2021年秋開催予定）
相武地域史研究会	博学連携事業の一環として、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究（軍隊・戦争と地域社会）を東海大学文学部歴史学科と共同で実施する。 （2／2年次）	①研究会の開催 9/16 オンライン開催 ②共催シンポジウム「軍隊・戦争と地域社会」（仮）の開催準備 3/30 東海大学

（4）研究紀要の発行

『横浜開港資料館紀要』第37号を発行した。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の適切な維持管理をおこなうとともに、新収資料等を紹介するミニ展示を定期的に行いました。また旧館・中庭を活用したイベントを開催し、集客を図りました。今年度から市内在住65歳以上の入館料が改定されたことを受けて、毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、対象者を入館無料としました。

（1）常設展示室観覧者の推移（目標数 51,600人）

	有料入館者（人）				無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	閲覧室	計					
2年度	8,573	964	411	9,948	2,832	12,780	26.9%	253日	51
元年度	21,928	3,470	748	26,146	21,398	47,544	85.9%	274日	174
30年度	26,035	4,729	823	31,587	23,714	55,301	82.1%	303日	182

（2）常設展示室でのミニ展示

常設展示室内で、新収蔵資料や新発見資料を紹介するミニ展示を開催した。

項 目	内容・成果
ミニ展示	第 103 回 1/4～4/1 「享保期、横浜村の村びとと土地」 臨時休館 4/2～5/31 第 104 回 6/2～8/30 「2 つの横浜貿易新報社」 第 105 回 9/1～12/3 「関東大震災 97 周年 少年・佐藤謙三の震災体験」 第 106 回 12/5～3/4 「明治の郷土開発史」 第 107 回 3/6～5/30 「日本の灯台の父」R・H・ブラントンの旧蔵資料

(3) 旧館の活用

旧館（旧英国総領事館）1 階の記念ホール等を活用し、集客イベント等を実施した。

旧館来場者数：18,885 人（年間）

項 目	内容・成果
「ひつじのショー」が案内する横浜横須賀めぐり サイクルスタンプラリー R2.9.16(水)・12/25(火)	「横浜、横須賀の魅力再発見に加え、三密を回避しながら運動不足も解消できるイベント」として企画されたサイクルスタンプラリー。感染防止の為、スタンプは参加者個人のスマートフォン等でQRコードを読み取る方式での実施となり、当館はその設置場所として旧館のホール及び駐輪場所を提供した。当館での押印数は857と参加10施設中2番目に多かった。 *横浜市道路局及び横須賀集客促進・魅力発信実行委員会主催事業
第1回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム R2.11.21(土)・22(日)	横浜ユーラシア文化館・都市発展記念館、横浜開港資料館、日本大通りの三会場にポイントを設け、オリジナル・スタチュー「赤い靴の女の子」を含む8体のスタチューによるパフォーマンスを実施。うち3体が開港資料館の旧館・中庭でパフォーマンスを行った。 *横浜ユーラシア文化館主催イベント

(4) 中庭展示

横浜市地域史跡である「たまくす」の木を中心に、ハイネ画《ペリー横浜上陸図》の陶板プレート、獅子頭供用栓・ブラフ溝・ガス灯（模型）などの土木資料、開港から昭和戦前期にいたる横浜の歴史を子ども向けに紹介した展示パネルなどを配置して、敷地内を散策する人にも横浜の歴史をわかりやすく伝えました。

中庭来場者数：26,565 人（年間）

(5) 開港（開館）記念日に関する事業

例年は開港（開館）記念日の6月2日を無料開館として、ミュージアムショップセールを開催していましたが、今年度は6月2日（火）が臨時休館からの再開館初日であったことから、新型コロナウイルス感染防止の観点から、無料開館のみの実施としました。



横浜横須賀めぐり サイクルスタンプラリー



第1回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料に関する研究成果を、企画展示等を通して公開しました。また新型コロナウイルスの影響で来館できなかつた方に向けて、企画展のオンライン解説動画を製作し、公式 YouTube チャンネルで公開しました。あわせて SNS を活用した資料紹介を進めました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
第1回企画展示 横浜市新市庁舎完成記念 「町会所から市役所へー古地図と古写真に見る横浜の歩みー」 R2. 6. 13(土)～9. 22(火・祝) 会期 68日	3,317人 (目標数 7,350人) 1日あたり 49人 ＊目標数は コロナ禍前 の設定	横浜市新市庁舎が2020(令和2)年6月末に供用を開始することを受けて、都市発展記念館・歴史博物館との3館連携展示として実施。開港直後に町の行政機関として設置された町会所の歴史や明治22(1889)年に発足した横浜市の現在に至る歩みを、館蔵の古地図や古写真等で紹介した。 ＊新型コロナウイルス感染拡大により臨時休館となり終了した前年度企画展の再開催。 ＊都市発展記念館、歴史博物館との連携展示
第2回企画展示 「コスモポリタンたちの足跡ー写真アルバムからー」 R2. 10. 3(土)～R3. 1. 24(日) 会期 92日	4,713人 (目標数 18,500人) 1日あたり 52人 ＊目標数は コロナ禍前 の設定	生麦事件の犠牲者リチャードソンの生前の写真が収められたイギリス商人、J・C・フレイザーの幕末写真アルバムをはじめ、当館が所蔵・保管する欧米外国人旧蔵写真アルバム28冊と、その関係資料など約120点を展示し、幕末から戦後にかけて横浜外国人社会に暮らしたかれら、コスモポリタンたちのあゆんだそれぞれの歴史を紹介した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として2020(令和2)年2月29日～6月1日を臨時休館としたことにより、当初予定の会期等を大幅に変

		更した。また、会期後半には緊急事態宣言が出され (2021年1月8日～24日)、ベルギー大使一行の来場 (1月16日予定)も中止となった。
第3回企画展示 「レンズ越しの被災地、横浜－写 真師たちの関東大震災－」 R3.1.30(土)～4.18(日) 会期68日 (年度中開催日数52日)	5,227人 (目標数 7,350人) 1日あたり 77人 *目標数は コロナ禍前 の設定	東日本大震災から10年が経過したのを機に、新たに寄 贈された西野写真館旧蔵関東大震災ガラス乾板写真28 枚を中心に、被災地となった横浜の状況を再現した。従 来から知られている写真師の岡本三朗、前川謙三に加 え、今回、明らかになった写真師の西野芳之助の活動を 紹介した。 *2021年1月8日から会期中の3月21日まで神奈川県 においても緊急事態宣言が出された。

(2) 展示関連事業の開催

事業名称	参加者数	事業内容
第1回企画展示 オンライン展示解説 (動画2本作成)		コロナ禍で来館できない利用者に向けて、会期中にオンライン展 示解説2本を製作し、公式YouTubeチャンネルを開設して公開 した。会期中の視聴回数は合計407回。
第2回企画展示 オンライン展示解説 (動画3本作成)		コロナ禍で集客事業ができなかったため、YouTubeを利用して 2020年12月26日に解説動画3本をアップした。21年1月25日 の展示終了時の視聴回数は、合計768回であった。その後も増加 を続け、4月20日時点で1270回となっている。
第3回企画展示 関連講座 R3.3.6(土)	関連講座 26名	関連講座「関東大震災と災害写真－被災地・横浜の風景－」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：吉田律人(当館調査研究員)



YouTube でのオンライン展示解説



企画展「レンズ越しの被災地、横浜」関連講座

(3) 各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
図録「コスモポリタンたちの足跡－写真アルバムから－」	1000部	1,000円＋税	A4判、48頁。横浜開港資料館編
図録「レンズ越しの被災地、横浜 西野写真館旧蔵関東大震災ガラス乾板写真」	1500部	1,200円＋税	A4判、48頁。横浜開港資料館編

(4) 地域・市民・学術団体との協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び当財団と各団体との協働事業を推進することを目的に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業をおこなった（令和元年度末現在、加盟46団体）。

項目	事業内容等
横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業	①総会・研修会・記念講演会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため総会・研修会・記念講演会は中止。総会については郵送による議決をおこなった。 ②横浜郷土史団体連絡協議会 News の発行 57号～58号 ③役員会の実施。 ④会報14号を刊行。

「横浜セントラルタウンフェスティバル Y161」への参加 *中止	開港記念日を中心に、地元の商店街組織（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町SS会）と地元マスコミが主催して行われるイベント。 *コロナ禍により中止。
全国博物館大会への協力 11月25日（水）、26日（木）	日本博物館協会が主催する第68回全国博物館大会（会場：横浜市開港記念会館）に、神奈川県博物館協会の加盟館として大会実行委員やプロジェクトメンバー等として参加し、大会を支えた。
横浜商工会議所などの機関誌への原稿執筆および学会との連携事業	横浜商工会議所機関誌「Yokohama 商工季報」、横浜港振興協会機関誌「よこはま港」、横浜市防火防災協会機関誌「よこはま都市消防」等への寄稿

（5）行政との連携事業

項目	事業内容等
横浜市道路局への事業協力 R2/9/16(水)～R2/12/15(火)	横浜市道路局他が主催する「横浜横須賀めぐりサイクルスタンプラリー」に参加し、スタンプポイントを旧館ホールに設置した。
「広報よこはま なか区版」への執筆協力	「広報よこはま なか区版」の連載記事「なか区歴史の散歩道」を都市発展記念館職員と共同で執筆した。
横浜市広報誌・広報番組への協力	横浜市広報課発行「季刊誌横濱」各号への執筆協力。 横浜市広報番組 TVK「ハマナビ」、FMヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」等への出演。

（6）マスコミ各社への協力

項目	事業内容等
テレビ局・新聞社などへの協力	朝日新聞夕刊「マダニヤイとことこ散歩道 横浜道」取材、テレビ東京「新美の巨人たち」への出演ほか。

（7）学校連携

項目	事業内容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れた。 コロナ禍での開催となり、ソーシャルディスタンスを保つための対応として、実習場所を講堂に変更し、全体を2グループに分けて日程をずらして受講してもらった。 8/25（火）～8/30（日） 9人

アーカイブズ・カレッジの受け入れ	国文学研究資料館が主宰するアーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）の施設見学を受け入れる予定であったが、コロナ禍で研修会は中止となった。
神奈川県高等学校文化連盟との連携	第26回神奈川県高等学校社会科研究大会（11/8、オンライン開催）を共催。開港・歴博両館館長が審査員を務めたほか、財団職員が運営を支援した。
市内小学校団体見学の受入	これまで横浜都市発展記念館で実施してきた、小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせたメニューの実施に本年度より当館の講堂を提供。19校、1,333人の利用があった。

(8) 広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第148号～第150号（年3回） 年間合計36,500部（当初予定50,000部） *当初4回発行する予定だったが、コロナによる休館(2/29～5/30)のため、1回（13,500部分）発行を見送った。
リーフレット類作成	横浜開港資料館催し物案内、年2回 *上半期分はコロナ禍で催しもの案内に記載していた予定を大幅に変更したため、配布を途中で中止した。
その他広報	① 横浜観光情報、インターネットミュージアム等の情報サイトへの情報掲出 ② 当館HPやメールニュースによる催し物等の情報発信 ③ 館の公式twitterを8月に開設し、SNSでも情報発信をはじめた。 ④ みなとみらい線日本大通り駅構内への企画展ポスター掲示 ⑤ 市内公共施設、博物館、図書館、観光施設、ホテル、駅観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑥ 新聞、タウン情報誌等への情報発信、記事掲載 ⑦ TV、ラジオ、新聞、CATV等のメディアからの取材受け ⑦ 市広報誌への記事掲載依頼

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時、行った。

	<p>また、昨年更新した OPAC システムに所蔵図書・新聞雑誌の追加アップを行った。</p> <p>利用者のアクセスのしやすさ、分かりやすさを考慮して HP のマイナーチェンジをおこなった（4月1日日本番環境へアップ）。</p> <p>内容：サイトマップ変更（ページリンク変更、コンテンツ欄入替）、ページ変更（開館カレンダー、交通アクセス、地図）等</p> <p>「開港のひろば」の掲載を html テキストからテキスト情報を持った（文字検索や読みあげが可能な）PDF 画面へ変更した。更新は発行に合わせて年3回おこなった。</p> <p>休館中や再開館後は、情勢に合わせて利用案内等の更新を頻繁におこなった。また日本語のページだけでなく、英語・中国語・韓国語のページも適宜更新した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPアクセス件数 合計 108,361 件 <p>館の公式 twitter を8月に開設し、SNS でも情報発信をはじめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツイート数 159 ・ツイートインプレッション 358,353 ・プロフィールへのアクセス 32,979 ・フォロワー 412 <p>また YouTube を利用した Web 企画展解説を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示解説動画も計5本を作成し、展示終了後も視聴回数は増加している。2021年4月20日時点で合計1994回。
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」第181号～第193号（計13回）を1,300～1,350名の登録者に配信した。

6 開港資料館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。昨年、基盤も含めた一部部品の交換修繕を実施した温水ボイラーが新たな不具合を起こし、令和3年度に交換修繕を予定していますが、収蔵庫及び展示室の温湿度の適正な管理に欠かせない機器であるにもかかわらず代替機器の設置が無いため、今後においても予防的且つ計画的なメンテナンスの実施が必須となります。その他、老朽化による課題も多いため、横浜市と連絡を密にしながら、適切な管理を行っていきます。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	<p>資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理。</p> <p>主な不具合：付属棟漏水、温水ボイラー機器内水漏れ（次年度取替）、旧館2階研究会室室内機冷媒漏れ（次年度修繕）、</p> <p>主な修繕：新館ルーフトレイン、空調機2基モーター交換、中央監視装置更新工事（横浜市長寿命化対策工事）</p>

7 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 企画展関連書籍や絵はがき・バンダナ・ミニタオル等のグッズを継続販売した
また、コロナ禍の休館中は通信販売にて対応した。
- ② 絵はがき4種（売れ筋の絵柄）の増刷をおこなった。
- ③ ECサイト導入に向けて、倉庫在庫の整理をし、また、目玉となる新商品の検討をはじめた。
- ④ 受付委託化（令和3年4月～）の準備
業者選定、業者との打ち合わせ、受付オペレーションの確認、スマレジへの商品登録等
- ④ また、歴博、都ユと同時期にオンラインチケットシステムの導入を図るとともに、3年度からキャッシュレス化可能な新レジの導入に向けて準備及び立ち上げ作業を行った。

（2）自動販売機（1台）の設置

施設利用者の利便を図るため、新館脇に自動販売機を設置している。

（3）喫茶室の委託

来館者サービスとして付属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：A u j a r d i n d e P e r r y（ペリーの庭で）

<各事業の推移>

（千円）

項 目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
ミュージアムショップ売上	889	2,874	3,862
自動販売機手数料収入	72	94	102
喫茶室委託料収入	1,860	1,880	1,913

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	所蔵資料点数は27万点を超えた。今年度は企画展の目玉となる貴重な資料（関東大震災ガラス乾板写真）が収集できた。今後の閲覧公開を見据えた資料のデジタル化も順調に進めている。	A
調査研究事業	各調査研究・連携研究を順調に進め、成果は企画展・紀要等で公表した。外部研究者との共同研究も適宜オンラインを活用しながら予定どおり進めた。	A

常設展事業	コロナ禍による近隣観光客の減少もあり、来館者数は前年度比 27%にとどまったが、定期的なミニ展示の開催や旧館・中庭を活用したイベント開催により集客につとめた。	B
企画普及事業	臨時休館があったことで、今年度の企画展示は 3 回の実施となった。年間の来館者数は目標に達しなかったものの、関連事業でオンライン解説動画を公開するなどあらたな試みを実施した。	A
情報事業	アクセスのしやすさや分かりやすさを目的とした HP のマイナーチェンジを実施し、メールニュース等での情報発信を順調におこなった。また新規に Twitter と YouTube を開設し、オンラインツールを用いた情報発信を積極的におこなった。	A
施設維持事業	資料の保管・管理、施設の維持・管理を適切に実施した。施設の老朽化や器械の故障が多発する現状にありながら館運営に支障がないように努めた。また、設備管理、警備の業務委託共に、複数年契約の最終年度であった為、次年度以降、より効率的な運営ができるよう仕様書などの見直しを進めた。	A
収益事業	コロナ禍による 2 カ月の臨時休館に加え、感染防止対策の為、店頭の一部の商品しか出せない状況が続いており、売上は厳しいが、新レジの導入等、次年度のネットショップの立ち上げに向けた準備を行った。	B

4 都市発展記念館事業

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館のなかスタートし、コロナ禍でのあらたな館の活動を模索する一年となりました。

予定していた 2 本の企画展は、コロナの影響によりいずれも内容を変更し、再開館後の第 1 回企画展では、会期中で臨時休館となって終了した横浜市新市庁舎完成記念企画展「近代横浜を掘る」をアンコール開催しました。また第 2 回企画展では、臨時休館中に館蔵資料の再確認をおこなった成果として、市民からの寄贈資料を中心に、震災復興から現代までの都市横浜のあゆみをふり返る館蔵コレクション展「後世に残したい、都市横浜の宝」を開催しました。

資料収集事業では、昭和期の港湾・都市計画関係の資料を重点的に収集したほか、日本貿易博覧

会に出品されたシルク人形など貴重な寄贈資料については、館蔵コレクション展で公開しました。

調査研究事業では、昭和期を中心とした各テーマの基礎的調査研究を実施したほか、外部研究者との連携事業である京浜移住者研究会・相武地域史研究会では、共催シンポジウムの開催に向けて準備作業を進めました。

令和2年度は、横浜セントラルタウンフェスティバル Y161 など大規模イベントが中止となり、例年実施していた開港記念日や開館祭などの無料イベントも中止せざるを得ませんでした。来館できない方に向けた普及事業として、Twitter や YouTube 等オンラインのツールを活用した資料紹介や展示解説を実施して、あらたな利用者の獲得につとめました。また学校連携では、ユーラシア文化館・開港資料館と連携し、感染防止対策を整えたうえで、市内小学校団体を受け入れました。

そのほか来館者への対応として、受付での接触機会を減らし、館内に密な状況を作らないために、オンラインチケットによる事前予約システムを導入しました。また市内 65 歳以上の入館料改定を受けて、毎月第 2 水曜日を「濱ともデー」と位置づけ、対象者を入館無料としてサービス向上に努めました。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

(1) 資料収集

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈9件 149点 寄託0件 0点	主な資料：ファチマの聖母少年の町記録写真、小泉商店シルク衣装人形、日本貿易博覧会神奈川会場写真、横浜実測図、横浜停車場（着色写真）ほか
資料の購入	39件 69点	主な資料：「横浜市振興対策要綱」、大江橋架替工事計画図、「市有売却地一覧図」、「Harbour Improvement Works in Japan」、「横浜港修築計画概要」、「神奈川県観光商工写真帖」ほか
資料修繕	0件	主な資料：なし
資料の複製収集	0件 0点	主な資料：なし
資料のデジタル化	63点	主なデジタル化資料：「ヨコハマ・ポートサイド」
複製資料の提供	39件 187点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ所蔵資料の複製画像を提供した。
資料の特別利用	0件 0点	調査研究目的による所蔵資料の原資料での特別利用に対応した。
資料の貸出	1件 12点	他の博物館施設等での事業に当館所蔵資料を提供した（野毛山動物園：「神奈川ニュース」）。

(2) 資料収集実績 (R2.4~R3.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	- (-)	- (-)	1 (12)	- (-)	1 (12)	1,670 (1,669)
図書	9 (2)	- (-)	2 (3)	- (-)	11 (5)	2,404 (2,393)
新聞雑誌	7 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	7 (1)	2,180 (2,173)
文書	25 (10)	- (-)	1 (3)	- (-)	26 (13)	4,407 (4,381)
紙票類	4 (75)	- (-)	- (36)	- (-)	4 (111)	5,537 (5,533)
写真	- (11)	- (129)	144 (149)	- (-)	144 (289)	22,282 (22,138)
絵葉書	15 (2)	- (-)	- (3)	- (-)	15 (5)	2,521 (2,506)
地図	2 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	3 (-)	739 (736)
図面	7 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	7 (-)	948 (941)
絵画	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (2)
映像	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	55 (55)
録音資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	171 (171)
電子資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	12 (12)
合 計	69 (101)	- (129)	149 (206)	- (-)	218 (436)	42,928 (42,710)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	外部倉庫での未燻蒸資料の資料燻蒸。 *今年度は未実施。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫 (200㎡)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型家具 (昭和初期の置時計・大テーブル他)などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

「都市形成」「市民のくらし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また開港資料館・市史資料室・歴史博物館との連携研究事業を進めました。

（1）基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市形成史 (2/3年次)	<p>関東大震災から高度経済成長期までの昭和期を中心に、現代都市横浜が形成される過程を、都市政策・都市計画（港湾計画）・都市交通などの観点から明らかにする。今年度も引き続き都市交通について資料の整理と分析を行った。その成果をもって市営交通100周年事業に監修等の協力をした。</p> <p>【近代遺跡】中華街で出土した旧中華会館・関帝廟の遺構と遺物について、ユーラシア文化館・埋蔵文化財センターと連携して調査をおこない、その成果は次年度開催のユーラシア文化館企画展「横浜中華街 160年の軌跡」にて公開した。</p> <p>【横浜地図データベース事業】過年度の開港資料館・市史資料室との連携事業の成果をもとに横浜および横浜周辺の地図について所在調査と分析を行う。今年度も引き続き所蔵地図資料の高精細デジタル画像データの整理を行った。</p>
横浜都市経済・産業史 (2/3年次)	<p>昭和期を中心に下記の三つの視点から現代都市横浜の経済（産業）構造を明らかにする。</p> <p>(1)商業地区（商店街）の形成と変容について／(2)観光および都市イメージの形成と変容について／(3)工業地帯の形成と変容について</p> <p>今年度は(2)に関連して、映像資料（横浜市広報番組）の整理とデジタル化を行い、分析を進めた。同番組フィルムを別に所蔵する中央図書館との調整もはかった。</p>
横浜市政史／都市生活・文化史 (2/3年次)	<p>昭和期を中心とした横浜スポーツ史に関する資料を調査し、スポーツが行政および市民生活に与えた影響について明らかにする。</p> <p>市内の関係機関の調査により、昭和期および第18回オリンピック東京大会開催時における未公開資料を複数発掘したほか、市内のオリンピック出場選手、運営関係者の資料調査を行い、諸種の成果を得た。これらの成果を次年度の企画展で公開する。</p>

（2）財団諸施設との連携研究事業

項目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	<p>戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業。横浜の空襲・戦災資料および田村明資料の活用に向けた作業を中心に事業を継続する。</p>

	<p>*今年度は実施せず。</p> <p>*開港資料館・市史資料室との連携研究事業</p>
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究	<p>磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（当館蔵）の昭和戦後期の読解・分析をおこなった。</p> <p>*開港資料館との連携研究事業</p>
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	<p>都市横浜の「歴史空間」を復元する研究事業の立ち上げに向けて、GIS（地理情報システム）技術の習得と、当該時期の地図資料の調査および分析を進めた。</p> <p>※開港資料館、県立歴史博物館との連携研究事業</p>
共同資料調査	<p>都筑区川和町の旧家である中山恒三郎家資料について、関係者の聞き取り調査を行い、あらたな知見を得た。</p> <p>*開港資料館・歴史博物館との連携研究事業</p>

(3) 外部研究者との連携研究事業

項目	目的・意図 及び 内容・成果
京浜移住者研究会 (2/3年次)	<p>近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を実施する。今年度は次年度開催に向けて、石川県の研究者・学術団体（加能地域史研究会）と共同シンポジウムの検討をおこなった。</p> <p>*笹川科学研究助成（実践研究部門）及び横浜市ふるさと歴史財団・横浜文化賞奨励金活用研究補助事業として実施。</p>
相武地域史研究会 (2/2年次)	<p>博学連携事業の一環として、東海大学文学部歴史学科と共同で、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究（軍隊・戦争と地域社会）を実施する。今年度はオンラインでの研究会の開催（9/16）と、共催シンポジウムの開催に向けた準備作業をおこなった。</p> <p>*開港資料館・東海大学文学部歴史学科との連携研究事業</p>
建築家中村順平に関する基礎的研究 (1/3年次)	<p>横浜高等工業学校建築科（現・横浜国立大学工学部建築学科）の主任教授を務めた建築家中村順平に関する資料の収集・整理を、外部研究者と連携して実施。今年度は、第一期卒業生の網戸武夫旧蔵資料の整理に着手した。</p>

(4) 研究紀要の発行

『横浜都市発展記念館紀要』第17号の発行準備をおこなった。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。また今年度から市内在住65歳以上の入館料が改定されたことを受けて、毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、

対象者を入館無料としました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項目	事業内容
展示資料の更新	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教員や小学校団体見学向けに、中庭側造作壁にコーナー「吉田新田その後」を常設的に設置した。 ・博物館実習の一環として、実習生による館蔵絵葉書を用いたミニ展示「横浜駅今昔」を設置した。
コーナー展の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「常盤とよ子追悼展 第一部：写真家・常盤とよ子の軌跡」 R2/6/13（土）～9/22（火祝） 令和元年1月24日に逝去された常盤とよ子氏を追悼して、横浜文化賞や神奈川文化賞を受賞するに至る常盤氏の写真家としての軌跡を寄贈資料から紹介した。 ・「関外と伊勢佐木町の発展～吉田新田その後～」 上記コーナー展以外の期間に、学校教員や小学校団体向けに吉田新田関連の資料を展示した。
常設展図録・新装版の発行	常設展図録『目でみる「都市横浜」のあゆみ』の新装版を編集・発行した（2,000部）。

(2) 常設展示観覧者の推移（目標数39,000人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者（人）
	一般	小中	計					
R 2 年度	902	178	1,080	9,141	10,221	31%	242日	42
R 1 年度	864	510	1,374	32,021	33,395	80%	278日	120
H30年度	942	663	1,605	40,287	41,892	119%	307日	136

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。新型コロナウイルスの影響で来館できなかった方に向けて、企画展のオンライン解説動画を製作し、公式YouTubeチャンネルで公開しました。あわせてSNSを活用した資料紹介を進めました。また小学校団体の受け入れについては、新型コロナウイルス感染拡大防止につとめながら、ユーラシア文化館及び開港資料館と一体となって実施しました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
横浜市新市庁舎完成記念 3館連携展示「近代横浜	一般 300円	2,141人	埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した洲干島遺跡の発掘成果をもとに、横浜市新市庁舎が整備される北

<p>を掘る 洲干島からひろがる都市のすがた」 令和 2 年 7 月 23 日（木祝）～9 月 22 日（火祝） 開館日数 54 日</p>	<p>小・中 150 円</p>		<p>仲通南地区の開港期から昭和戦前期までの都市形成史を、遺構と出土遺物から紹介した。 *新型コロナウイルス感染拡大により臨時休館となり終了した前年度企画展のアンコール開催。 *開港資料館、歴史博物館、埋蔵文化財センターとの連携事業 【関連事業】 (1) 展示図録の編集・発行 定価：900 円（税込）、売上：82 冊 (2) YouTube チャンネルでのオンライン展示解説の公開（全 4 本） (3) Twitter での展示資料紹介 (4) ギャラリー展「7 代目横浜市庁舎ができるまで～広報課写真資料より」 会場：1 階ギャラリー * 市史資料室との連携 (5) 毎日新聞に連載記事掲載（7/29, 8/14, 8/19）</p>
<p>館蔵コレクション展「後世に残したい、都市横浜の宝」 令和 3 年 1 月 16 日（土）～3 月 28 日（日） 開催日数 62 日</p>	<p>一般 300 円 小・中 150 円</p>	<p>1,673 人</p>	<p>市民から寄贈された資料を中心に、これまで当館が収集してきた資料を集めて、震災復興から現在にいたる都市横浜の歴史を紹介した。 *新型コロナウイルス感染拡大の影響により当初予定の企画展から内容を変更して開催。 【関連事業】 (1) 五十嵐英壽写真展「写真記者が見つめた横浜風景」の開催 会場：旧第一玄関、1 階ギャラリー (2) YouTube チャンネルでの映像資料公開 館蔵資料から「神奈川ニュース・セレクション」として昭和 30 年代前半の横浜市政ニュース 12 本を公開した。 (3) Twitter での展示資料紹介</p>
<p>次年度企画展準備</p>			<p>次年度開催予定の企画展「横浜スポーツのあゆみ」（仮）に向けて資料調査を実施した。</p>



オンライン展示解説



神奈川ニュース・セレクション



館蔵コレクション展

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者
R 2 年度	2,849	965	3,814	51.3%	116	33
R 1 年度	2,588	4,848	7,436	31.5%	99	75
H30年度	7,516	16,058	23,574	152.0%	136	173

(3) 普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事業内容
常盤とよ子追悼展 「第二部：常盤とよ子が写した 戦後横浜の女性たち」 R2/6/13 (土) ~9/22 (火祝)		令和元年1月24日に逝去された常盤とよ子氏を追悼して、常盤氏の代表作である「赤線地帯」シリーズをはじめとした、戦後横浜の女性をテーマとした作品群を展示した。 会場：1F ギャラリー、旧第一玄関
開港記念日 中止		市内の小学校が休みとなる6月2日の開港記念日を無料開館日とし、小学生向けのワークショップを開催。 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
月イチ講座の開催 中止		1階ギャラリーを活用した月1回定例の講座。 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面对面での実施を中止。 *ユーラシア文化館との共同開催
開館祭 R3/3/13 (土), 3/14 (日) 中止	171人	新型コロナ感染拡大防止のため、例年開催してきた開館祭は中止とし、代わりに開館記念日として都ユ両館を無料開館した。当日は特別イベントとして参加人数を限定しての歴史散歩を開催した。 歴史散歩参加者：19名 (3/13は雷雨のため中止)

(4) 地域・行政・学術団体との連携事業

項 目	事 業 内 容
横浜セントラルタウン・フェスティバルY161への参加 *中止	地域の商店街組織（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町SS会）と地元マスコミが主催して行われるイベントに、山下公園通り会として開港資料館・ユーラシア文化館と共同で参加。 *コロナ禍により中止。
事業監修	横浜市営交通100周年事業の関連出版物（神奈川新聞社発行）について、歴史的事象に関する部分の監修、および掲載用の写真・図版の提供を行った。
全国博物館大会への協力 11月25日（水）、26日（木）	日本博物館協会が主催する第68回全国博物館大会（会場：横浜市開港記念会館）に、神奈川県博物館協会の加盟館として大会実行委員やプロジェクトメンバー等として参加し、大会を支えた。
「広報よこはま なか区版」への執筆協力	中区に関する歴史資料を紹介する連載記事「歴史の散歩道」を、「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で執筆した。

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生で学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、エドューケーターと職員による解説を実施。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開港資料館講堂も利用して、19校、1,333人の小学校4年生の団体入館を受け入れた。（前年度小学校4年生116校 10,174人）
教員向け研修の実施 *中止	財団エドューケーターと連携して、小学校4年生向けの解説・体験メニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施。 *コロナ禍により中止。
	横浜市小学校社会科研究会と連携しての研修会の実施。 *コロナ禍により中止。
神奈川県高等学校文化連盟との連携	第26回神奈川県高等学校社会科研究大会（オンライン開催）を財団と共催した。
学芸員実習の受け入れ	3名の学生を受け入れた（8/27～9/2）。新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し、ソーシャルディスタンス確保のため、ユーラシア文化館常設展示室のライブラリーを実習場所として実施した。最終日には実習生にミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらうと同時に、当館の展示事業のひとつにつなげた。

(6) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	<p>年2回の催し物案内、企画展関連広報印刷物、館報を中心に、適宜イベントチラシを作成・配布を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第34号（10,000部） ・その他、月イチ講座、開館祭チラシなど
優待カードの発行	<p>年間パス「EAハマ発カード」の販売を継続した。</p> <p>年会費 1,500円</p>
その他広報	<p>横浜市を通じての記者発表</p> <p>横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動</p> <p>市内学校・公共施設へのチラシ配布</p> <p>日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出</p> <p>ホームページ・Twitter・YouTubeチャンネルによるインターネットでの情報配信</p> <p>テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入</p> <p>新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入</p> <p>市内観光案内所へのチラシ訪問配布</p> <p>市外都市旅行代理店への施設説明</p> <p>フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR</p>

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	<p>新着情報の発信</p> <p>企画展示案内の更新</p> <p>館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載</p> <p>ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ）</p>
メールニュース配信	<p>企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新商品などの内容を盛り込んだメールニュースを定期的に配信した。</p> <p>配信数 65～69号 計5回</p>

オンラインツールによる情報発信	<p>TwitterやYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。</p> <p>【Twitter】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツイート数 109 ・ツイートインプレッション 122,071 ・プロフィールへのアクセス 13,419 ・フォロワー 203 <p>【YouTube】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開動画本数 23 ・視聴回数 8,386 ・登録者数 189
-----------------	--

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
都市発展記念館	施設の維持管理 ・主な修繕：中央監視装置（正面カードリーダー等）

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

(1) ミュージアムショップの経営

コロナ禍、お客様と受付スタッフに配慮し、当初店頭にはビニールカバーをかけた図録、商品の見本のみを置き、希望する商品を受付横の棚から出して販売を行った。その後商品数を少しずつ増やしていったが、缶バッジなども一点ずつビニールの袋に入れ、手に取りやすいよう対応した。

また、歴博、開港と同時期にオンラインチケットシステムの導入を図るとともに、3年度からキャッシュレス化可能な新レジの導入に向けて準備及び立ち上げ作業を行った。

(2) 自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移>

(千円)

項目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
ミュージアムショップ売上	1,887	6,697	7,173
自動販売機手数料収入	68	81	85

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	今年度は昭和期の港湾・都市計画関係の資料収集が	A

	進んだ。また戦災復興期の貴重な資料寄贈があり、館蔵資料の一層の充実につながった。	
調査研究事業	各調査研究を順調に進め、成果は企画展等で公表した。また外部研究者との連携研究もオンラインを中心に進めた。	A
常設展事業	コロナ禍により来館者数は前年度比 31%にとどまったが、Twitter 等のオンラインツールを活用して施設の情報発信につとめた。またロングセラーである常設展図録の新装版を発行した。	A
企画普及事業	2 回の企画展示はコロナ禍により当初予定の内容を変更して開催した。来館者数は前年度比 51%にとどまったが、オンラインでの解説動画などあらたな試みを実施した。学校連携では、感染防止対策を整えたうえで、ユーラシア文化館・開港資料館と連携し、市内学校団体受入を実施した。	B
情報事業	定期的な HP コンテンツの更新のほか、新規に Twitter と YouTube を開設し、オンラインで積極的に情報発信をおこなった。	A
施設維持事業	施設の老朽化が進み大幅な更新が必要な個所が出始めているが、日々の運営を滞らせることなく最低限の修繕を実施した。	B
収益事業	臨時休館の影響により、ミュージアムショップの売り上げは前年度を下回ったが、鳥観図、絵葉書など定番商品は安定した売り上げをみせた。	B

5 ユーラシア文化館事業

令和2度は、新型コロナウイルス感染拡大という事態を受けて、これまでにない取り組みを求められました。4月1日から6月2日まで臨時休館となったこともあり、それ以後は感染拡大防止に努めるとともに、コロナ禍での博物館は何をすべきかを検討し、試行錯誤で新たな試みを行いました。

展覧会では、新聞社と他の博物館と共催した巡回展「しきしまの大和へーアジア文華往来」と新規寄贈資料による初の絵画展である「杏咲く頃—絵筆と歩いたシルクロード 小間嘉幸絵画展」を開催し、図録を刊行しました。

常設展示では、企画展に合わせての一部展示替え、資料の初公開、季節にあわせたテーマ展示などを実施しました。

調査研究では、収蔵資料の基礎的研究や展覧会へ向けて、財団内外の関係者と連携しながら、調

査研究を行いました。

普及啓発事業では、1階のフリースペース（ギャラリー、旧第一玄関）を活用し、各種パネル展、企画展に関連した写真展などの催しを実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、5月末のY161、3月の開館祭等のイベントが中止となりましたが、11月には財団内外の組織と連携し、新規事業の第1回横浜スタチュー・ミュージアムを実施しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

(1) 資料収集・保存

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈138点 寄託0点	主な収集資料：江上コレクション追加資料、小間嘉幸氏スケッチブック、アフガニスタンガラス製品ほか
資料の購入	0点	
資料熟覧	0件	
文献資料熟覧	0件	
資料の貸出	1件	小学校への学習教材（民族衣装、馬頭琴など）の貸出しを行った。
収蔵資料の画像利用	3件	『実力アップ問題集 歴史』（文英堂発行）、カタログ『Cultural Treasures Related to the History of Mongolia in Japan』（国際モンゴル学会発行）への画像提供。

(2) 文献資料の整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
和図書	書誌データの入力、修正を行った。入力件数 819 件
洋雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 64 件
和雑誌	書誌データの入力、修正を行った。入力件数 260 件

(3) 資料収集実績

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	0 (0)	0 (0)	138 (103)	0 (2)	138 (105)	9,052 (8,914)
図書	8 (14)	0 (0)	32 (27)	0 (0)	40 (41)	22,544 (22,504)
雑誌	0 (0)	0 (0)	17 (35)	0 (0)	17 (35)	8,351 (8,334)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	20 (20)
合計	8	0	187	0	195	39,967

	(14)	(0)	(166)	(2)	(182)	(39,772)
累計	922	2	38,861	182	39,967	

※（ ）内は、前年度点数。

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	今年度は実施せず。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号)

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げてきています。なお、ユーラシア概念に関する歴史博物館や外部研究者との共同研究については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見合わせました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
収蔵資料と関連資料の研究 (5/5年)	今まで収集してきたイスラーム時代のガラスや陶器の情報を整理し、データベースの作成を行った。その成果は令和4年度に予定している中央アジアの工芸品をテーマにした企画展で公開する。収蔵資料の調査成果は広報誌第35号にて公開した。円筒印章については、整理作業に着手した。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究 (5/5年)	中華街関係の企画展にあわせて、横浜華僑の服飾関係資料などの調査研究を行い、貴重な資料の寄贈・寄託につながった。
ユーラシア概念をめぐる研究 (5/5年)	歴史博物館と連携し、共同研究会を実施してきたが、今年度はコロナ禍のために実施することができなかった。(歴史博物館との連携事業)
横浜華僑・中華街に関する研究 (2/3)	横浜華僑の口述記録調査を行い、来年度の企画展の準備を進めるとともに、横浜中華街発展会協同組合50年史編纂事業に参加し、知見とネットワークを広げた。
令和3年度以降開催予定の企画展調査	令和3年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。

(2) 研究紀要の発行

『横浜ユーラシア文化館紀要』第9号（A4判、61頁、400部）を発行。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを配布するなど、集客とサービスの向上を図りました。

(1) 常設展示室での実施事業

項目	事業内容
展示更新	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展やイベントに合わせて、入口ケース、「装う」、「伝える」の展示替えを行った。また、新年の干支に合わせて企画展示「牛からの挑戦状」を実施し、常設展示資料への理解を広めた。会期：12月23日～3月14日 ・特別公開「江上コレクションの西アジア服飾品」イランの鞍袋や靴下などを紹介。会期：令和元年10月5日～12月22日、更に6月4日まで会期を延長。 ・企画展やイベントにあわせて、ライブラリーに関連図書を配架した。

(2) 常設展示観覧者の推移（目標数 37,900 人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
R 2 年度	273	105	378	9,134	9,512	29.0%	242 日	39.3
R 1 年度	729	376	1,105	31,688	32,793	79.0%	274 日	119.7
H30 年度	912	441	1,353	40,143	41,496	117.5%	305 日	136.0

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

市内学校団体受入につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止につとめながら、都市発展記念館及び開港資料館と一体となって実施しました。また、より多くの方に見ていただけるよう SNS の活用や YouTube での動画配信も行いました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
特別展 「しきしまの大和へーアジア文華往来」 R2. 6. 13(土)～R1. 7. 12 (日) 会期 30 日間（うち開館日数 26 日）	一般 500円 小中 200円	1,462 人 （目標数 7,300 人） 1日あたり 56人 ＊目標数はコロナ	本特別展は、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館の蔵品巡回特別展として、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、東京新聞および当館の三団体による主催事業として実施したものである。展示資料としては、初公開となる高松塚古墳西壁女子群像（通称・飛鳥美人）の複製陶板や、世界で唯一の出土例である澤ノ坊2号墳出土の翡翠製合わせ勾玉、縄文ファンに人気の観音寺本馬遺跡出土土偶など、奈良県域出土の優品が揃っ

		禍前の設定	<p>ていた。</p> <p>本展示は、新型コロナウイルス Covid-19 の感染拡大、これに伴う緊急事態宣言の発令を受けて、会期の短縮・変更、関連行事の中止等を余儀なくされた。会期は当初予定の 62 日間から 26 日間に短縮した。また、開館時間の短縮や入場人数の上限の設定を含めた、諸々の感染拡大防止措置をとる中での開催となった。こうした諸条件もあり、入館者数は当初目標の 20% に留まった。しかし、観覧料収入については目標の 65% を確保し、図録の売り上げは 154 冊と目標の 86% に達した。これは考古ファンなど熱心な客層の来館があったためだといえるだろう。</p> <p>関連行事は、基本的にはすべて中止せざるを得なかったが、譽田亜紀子氏をゲストに迎えてのオンライン・トークショーとオンライン・ギャラリー・ツアーを、当館 YouTube チャンネルで配信した。</p> <p>【展示図録の編集・発行】 B5 判、80 頁 定価：1,000 円（税抜）、発行：東京新聞 展示図録『しきしまの大和へーアジア文華往来』、発行：154 冊</p> <p>【関連事業】</p> <p>① オンライン・トークショー（6 月 6 日） ゲスト：譽田亜紀子氏 108 人参加（同時接続数）</p> <p>② オンライン・ギャラリーツアー ゲスト：譽田亜紀子氏 計 19 本配信。2020 年 5 月～7 月の当館 YouTube チャンネルにおける視聴回数・時間の合計はそれぞれ 2,928 回・276.8 時間。</p>
企画展 「杏咲く頃—絵筆と歩いたシルクロード 小間嘉幸絵画展」 R2. 10. 3(土)～12. 27(日) 会期 74 日間（うち開館日数 63 日）	一般 300円 小中 150円	3,280 人 1日あたり 52人	<p>本展は、2019 年度に当館へ寄贈された洋画家 小間嘉幸のシルクロードに関する油絵と水彩作品等を大規模に紹介する初めての展覧会であった。シルクロードの歴史や文化への理解を深めることを目的に、会場では絵画だけでなく描かれたモチーフに関連する当館所蔵の考古・美術・民族資料、現在の破壊された遺跡写真も展示して、博物館ならではの特徴ある展覧会を展開することができた。会期中は新型コロナウイルス感染を予防しつつ、スライドを使った展示の見どころ</p>

		<p>ろトークを行ったり、ツイッターへの投稿や新聞連載（4回実施）を通して作品を紹介したりした。コロナ禍での展覧会開催であったが、来館者からは実物資料の展示が絵画の理解に役立つ、遺跡破壊に衝撃を受けた、豊かな時間を得られたなどの感想が寄せられた。</p> <p>●展示図録の編集・発行 A4判、48頁 定価：1,000円（税抜）、売上：91冊</p> <p>【関連事業】</p> <p>①写真展「小間嘉幸が見たシルクロード」 （1階ギャラリー）会期中開催</p> <p>②写真パネル展「敦煌壁画展」 協力：東京国立博物館（旧第1玄関）会期中開催</p> <p>③「見どころトーク」11/16、11/28、12/13、12/26（会期中4回実施）参加者49人</p> <p>④「今日の一枚」ツイッターでの作品紹介 会期中の投稿数：97回、インプレッション数226,811件（目標の100.8%）</p>
企画展基礎調査		来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



企画展「しきしまの大和へ」
オンライン・トークショー
（Youtube Live 配信の様子）



企画展「しきしまの大和へ」
オンライン・ギャラリー・ツアー
（Youtube チャンネルにて配信）



企画展「杏咲く頃」
見どころトーク

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計	前年比	開館日数	1日平均入館者
R2年度	2,628	2,114	4,742	21.5%	100	47
R1年度	6,722	15,301	22,023	152.2%	134	164
30年度	3,456	11,017	14,473	88.7%	126	115

※H30年度の観覧者については、H29年度に実施した企画展「魅惑のランブー古代地中海からヨーロッパ、アジア・日本まで」の会期（H30.1.20～H30.4.1）のうち、H30.4.1の入館者分を含む。

(3) 講座・講演会

項 目	参加者数	内 容
月イチ講座の開催		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(4) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
「馬頭琴演奏会」 R2. 11. 3	参加者計 45 人	新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮して、中庭でモンゴル民話『スーホの白い馬』に登場する馬頭琴の演奏会を行った。演奏：宮原洋子 協力：天馬の会
「なか区ブックフェスタ」への参加 R2. 11. 1～11. 29	1,786 人	常設展示室の一部でミニ展示「『スーホの白い馬』の世界へ」を実施。モンゴル民話『スーホの白い馬』に登場する馬頭琴を展示し、モンゴル語の絵本を紹介した。会期は、令和3年4月7日まで延長。
開館祭 R3. 3. 13(土)・14(日) 中止	171人	コロナ感染拡大防止のため開館祭は中止とし、代わりに開館記念日として都ユ両館で無料開館。
第1回横浜スタチュー・ミュージアム R2. 11. 21(土)・22(日)	601人	横浜ユーラシア文化館・都市発展記念館、横浜開港資料館、日本大通りの三会場にポイントを設け、オリジナル・スタチュー「赤い靴の女の子」を含む8体のスタチューを設置した(各スタチュー1時間×2回)。全館無料開館として、常設展示室内にも一体設置した(参加者数は常設展示室の利用者数)。



馬頭琴演奏会



第1回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム

5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内学校団体見学の受入	・国語学習（「スーホの白い馬」）の充実を図るために、市内外の小学

	<p>校にモンゴル体験キット（モンゴル民族衣装、馬頭琴）の貸出を行った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、開港資料館の講堂も利用して、小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、都市発展記念館と連携し、職員による解説と体験メニューを実施した。</p> <p>19校 1,333人（前年度小学校4年生116校 10,174人）</p>
教員向け研修の実施 中止	財団エデュケーターと連携し、吉田新田の学習をはじめとする教員向け研修を実施した。
学芸員実習の受け入れ	コロナ新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実習期間を3日とし、合計8名の学生を受け入れた。学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。

(6) 市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワークショップの実施 中止	コロナ新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施を中止した。

(7) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ新型コロナウイルス感染拡大のため、行事予定を策定が困難なため、催し物案内の作成を中止した。 ・企画展ポスター・チラシ ・館報『横浜ユーラシア文化館ニュース<i>News From EurAsia</i>』第33・34号（各8,000部）
優待カードの発行	年間パス「EAハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市を通じた記者発表。 ・市内学校・公共施設へのチラシ配布。 ・日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出。 ・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。 ・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。 ・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。 ・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。

	<ul style="list-style-type: none"> ・市外都市旅行代理店への施設説明。 ・フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR。 ・近隣へのダイレクトメール発送。
--	--

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。 文献：館蔵文献のOPAC公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物・休館や再開館についての広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 158,719 件（前年度の 81 %）
SNSによる情報発信	公式 Twitter に加え、2020 年 3 月に公式 Youtube チャンネルを開設した。Twitter はツイート数合計 351、フォロワー 974、インプレッション合計 1,345,361（前年比 314%）。Youtube は、ライブ 1 回、動画 24 本、視聴回数 4,002 回、総再生時間 277.7 時間、チャンネル登録者 95 人。

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	施設の維持管理 ・主な修繕：空調設備の部品交換・修理、トイレの交換工事などを実施。

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

コロナ禍、お客様と受付スタッフに配慮し、当初店頭にはビニールカバーをかけた図録、商品の見本のみを置き、希望する商品を受付横の棚から出して販売を行った。その後商品数を少しずつ増やしていったが、缶バッジなども一点一点ビニールの袋に入れ、手に取りやすいよう対応した。

オリジナル絵葉書を自作することにより、余分な在庫を抱えず、人気の高い図柄を常に店頭に置くことができた。また、歴博、開港と同時期にオンラインチケットシステムの導入を図るとともに、3年度からキャッシュレス化可能な新レジの導入に向けて準備及び立ち上げ作業を行った。

(2) 自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移：再掲>

(千円)

項目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
ミュージアムショップ売上	1, 887	6, 697	7, 173
自動販売機手数料収入	68	81	85

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は着実に進捗した。資料の熟覧や他館への貸出など、外部利用者へのサービスも適宜対応した。	A
調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗することができた。	A
常設展事業	常設展については、干支クイズなどの時宜にかなった企画の実施、展示資料に関連したクイズの配布などの工夫を行うとともに、企画展に合わせ展示内容を連動させるなど集客を図った。	A
企画普及事業	財団内外と連携して、横浜の国際性をアピールする2回の企画展を開催し、コロナ禍にも関わらず好評を得た。また今年度は第1回横浜スタチュー・ミュージアムを実施し、大変好評を得た。また、都市発展記念館と一体となって、制約がありながらも、市内学校団体受入を実施した。学校連携では、モンゴル関係キットの貸し出しを行った。	S
情報事業	定期的なメールニュースの発行、HPを利用した情報発信に加えて、新聞等のマスコミを活用し、広報強化に努めた。また、TwitterやYoutubeなどインターネットを通じての情報発信も積極的に行った。	A
施設維持事業	施設の老朽化が進み大幅な更新が必要な個所が出始めているが、日々の運営を滞らせることなく円滑な運営に努めた。	B
収益事業	売上げは落ち込んだが、鳥観図等の見本を見やすく掲示したり、オリジナル絵葉書を作成したりして、購買に繋げた。	B

6 三殿台考古館事業

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大によって、予定していたイベントの約2/3が実施に至りませんでした。6月2日の再開以降は多くの市民に来館していただきました。令和2年3～5月の臨時休館期間を除いた、6月から翌年2月にかけての9か月間の利用者は令和2年度に10,169人で、令和元年度の8,565人と比較し、18.7%の増加となりました。学校団体の減少も踏まえると、一般利用者の伸びは著しく、コロナ禍であっても三殿台考古館が、市民の皆様から興味と関心を寄せられている屋外施設であることに他ならないと考えます。とりわけ磯子区・南区の皆様にとっては、身近な施設であるとの声を多く聞きました。

このような状況のなか三殿台考古館では、令和2年度に次の4事業を更に充実・発展させるべく目標に取り組んできました。

1. 資料収集保管事業・調査研究事業

- ①調査後収蔵されたままの出土品における整理作業及び展示遺物の補修を行いました。
- ②記録資料の保存及び活用を図るため、劣化した写真や測量図面のデジタル化を実施しました。
- ③整理ボランティアとの協働によって、収蔵されている出土品の再整理作業を行いました。

2. 常設展事業

- ①小学校社会科見学では、児童の興味と関心を導き出すプログラムを構築しました。
- ②縄文・弥生復元住居立替の広報手段として、区役所ギャラリーにて模型を展示しました。
- ③磯子区役所との連携により、熱中症対策の一環としてミスト扇風機を6週間設置しました。

3. 企画普及事業

- ①各種イベントをHP及び公共広報紙、新設のツイッターにて市民に広報しました。
- ②ガイドボランティアによる土・日曜日の常設展示・遺跡ガイドを継続実施しました。
- ③グッズ販売に際しては、のぼり設置・ワゴン陳列・グッズレイアウト等を一新しました。

4. 施設維持事業

- ①出勤スタッフによる施設内の清掃、草刈り、樹木剪定、安全点検を毎日行いました。
- ②ベンチ及びU字溝等、危険と判断できる箇所を所管課に報告し安全策を講じました。
- ③来館者が3時代の復元住居跡を判別しやすいよう、現状変更許可によって擬木を塗装しました。

(令和3年度は「コロナ」及び「熱中症」の観点から運営方針を刷新し、「1. 来館者の興味と関心に応える三殿台考古館」「2. 市民と地域に寄り添う三殿台考古館」「3. 市民ボランティアと協働する三殿台考古館」の3つを基軸として設定しました。)

1. 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

保管資料について整理・分類・デジタルデータ化等を行い、資料の保全を図りました。

(1) 保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	作業には整理ボランティアの協力を得ながら、洗浄や実測等、また、発掘時の原図を見直し、遺跡全体図の再作成作業を行った。

記録資料のデジタルデータ化事業	保管している測量図面・写真類のデジタルデータ化を継続した。遺構が不特定な写真についての特定作業を進めた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された図書を整理分類した。

(2) 調査研究事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡の再評価	市民ボランティア育成事業と関連した、出土品の整理作業（分類・接合・復元・実測）を行った。
古代技術の復元的研究	石蒸し調理法による調理実験を実施した。発掘調査で出土する礫群・集石遺構について実証的な研究を行った。
三殿台考古館収蔵資料の活用	三殿台遺跡発掘調査の映像資料（DVD）を小学校社会科見学の事前学習用に貸し出した。また、小学6年生の社会科見学の際、土器片や石器等の収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史教育の支援に活用した。

2. 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） 令和2年度 来館者数 11,597人

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体及び一般来館者見学時に、遺跡や展示品についての解説を丁寧に行いました。

(1) 常設展示の維持管理と展示内容の充実

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	団体及び一般来館者見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室・北側貝塚について、職員が758人に遺跡案内・展示解説を行った。

(2) 住居跡保護棟の適切な保全

項 目	事 業 内 容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを業者に委託し、隔月の実施をした。また、住居跡保護棟の窓ガラス8枚（表裏16枚）に低反射フィルム貼付工事を実施し、住居跡の保護と反射による内部の観察障害を軽減した。令和3年度分も今年度末に実施した。

3. 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

コロナ禍の影響で限られたイベントの開催となりましたが、市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるよう生涯学習を支援しました。

(1) 企画普及事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
「いそっぴゴールデンウィーク2020」スタンプラリー	中止	5月25日から5月6日の期間で「いそっぴゴールデンウィーク2020」スタンプラリーを企画したが、コロナ禍の

		影響で中止となった。
「子どもアドベンチャー2020」	中止	コロナ禍の影響により中止となった。
三殿台遺跡整理ボランティア (6月2日からの活動)	386人	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。弥生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復元・実測及び石器の実測作業を行った。 記録資料整理に際しては、写真資料整理・デジタル化作業を行った。
三殿台遺跡ガイドボランティア (6月2日からの活動)	32人	2人のボランティアが土曜日を中心に、来館者へ遺跡解説を行った。延べ32人が活動し612人をガイドした。
ダイヤモンド富士を見る会①	0人	9/21～25 雨天曇天により観覧できなかった。
夜景を見る会	13人	12/18～20
ダイヤモンド富士を見る会②	38人	3/17～21
学校見学の受け入れ	605人	年間を通じて、小学校6年生の受け入れを行い、9校605人が来館した。引率教諭との事前打合せを経て、三殿台遺跡の解説及び4種類の体験プログラムを2時間の授業に組み入れた。
職業体験・職業講座の受け入れ	要請なし	例年、近隣の3中学校からの要請があるが、令和2年度は依頼がなかった。
小学校クラブ活動 及び 総合的な学習等への支援	各回 17人 (全6回) 各回 70人 (全3回)	岡村小学校の地域交流クラブに講師2名を派遣した。勾玉作り・弓矢づくりの指導を行った。 岡村小学校6年生の土器作り指導に、講師2名を派遣した。
ホームページの運営		ホームページ及びツイッターで催事等を広報した。 三殿台考古館のEメールアドレスをアップし、イベントの申し込みに対応させた。 年間催事案内を常時掲載し、体験教室等のイベント情報を発信した。
その他広報		広報よこはま磯子区版に体験教室等の情報を提供した。 プラネット神奈川及び横浜カレンダーに体験教室等の情報を提供した。

(2) 体験学習事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験学習の実施	コロナ禍の影響により、9月19日より	・ゴールデンウィーク体験教室 (中止) ①5月3日：古代人体験教室 ②5月4日：勾玉作り体験教室 ③5月5日：石器作り体験教室

	開催	<ul style="list-style-type: none"> ・春の弓矢うち大会 (中止) 5月16日 ・開港記念日イベント「火起こし体験」 (中止) 6月2日 ・夏休み体験教室 (中止) <ul style="list-style-type: none"> ①7月18日、23日：土偶作り教室 ②7月19日、24日：土器作り教室 ③8月1日、22日：勾玉作り教室 ④8月8日：石器作り教室 ⑤8月23日：土偶・土器 野焼き ・キャンプ in 三殿台 (中止) 7月25日・26日 ・秋の勾玉作り教室 (中止) 9月12日 ・秋の弓矢うち大会 (12人) 9月19日 ・秋の土器作り教室 (各回5人) 10月10日・11日、11月7日 ・石蒸し調理実験 (8人) 11月01日 (埋蔵文化財センターとの共催) ・秋の野焼き (5人) 11月7日 ・冬の弓矢うち大会 ひらひら凧作り 12月5日 (雨天中止) ・冬の土器作り教室 (各回05人) 1月9日・10日・2月20日 ・冬の勾玉作り体験教室 2月6日 (12人) ・随時実施の火起こし・勾玉作り (5人以上予約) 火起こし 55人、勾玉作り 10人
--	----	---

(3) その他利用促進事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
弓矢うち体験	2096人	手作り弓矢の敷地内貸し出し (無料)

(4) グッズ製作・販売事業

項 目	事 業 内 容

缶バッジの製作・販売	缶バッジの製作・販売 販売価格1個 100円 売上げ 51個 5,100円
土器片ペンダントの製作・販売	土器片ペンダントの販売 販売価格1個 700円・500円 売上げ @500×49個+@800×2個 26,100円
オリジナルクリアファイルの販売	オリジナルクリアファイルの販売 販売価格1枚 200円 売上げ 33枚 6,600円
勾玉づくりキットの製作・販売 (青田石・滑石)	勾玉づくりキットの製作・販売 販売価格1個 300円 売上げ 252個 75,600円

4. 三殿台考古館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に満足感を与えるよう運営しました。

(1) 三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容
経常的な維持・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡「三殿台遺跡」・管理事務棟・展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・遺構表示用擬木の維持管理を実施しました ・遺跡内草刈り、植栽剪定 ・職員による遺跡内及び周辺の清掃作業や、施設内巡回などの危機管理対策を実施しました。

(2) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項目	令和2年度	令和1年度	平成30年度	平成29年度
自動販売機売り上げ（千円）	24	23	27	26

(3) 三殿台考古館施設入場者の推移

項目	令和2年度	令和1年度	平成30年度	平成29年度
三殿台考古館施設入場者（人）	11,597	13,423	14,947	15,252

※令和2年度4・5月臨時休館、令和元年度3月臨時休館



小学校 社会科見学



石蒸し調理実験



土器作り教室

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集保管事業では、整理ボランティアによる三殿台遺跡出土品基礎整理、収蔵記録資料のデジタルデータ化などを継続した。また職員により三殿台遺跡調査時測量図面の整理を実施し、遺跡全体図の再作成作業を継続した。	B
常設展事業	職員による学校団体・一般団体・その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を実施した。 コロナ禍の影響で小学校の社会科学見学は9校にとどまったが、 野外施設という当館の特徴を理解した市民の利用を促し 、臨時休館期間を除く6～2月で利用者数を比較すると、令和2年度は前年度比で18.7%増となった。	A
企画普及事業	市民や来館者に遺跡への理解を深めていただけるよう、展示解説や体験教室を開催し、生涯学習の一端を支援した。 コロナ禍によるイベントが中止になる中、屋外で行う無料の弓矢うち体験は2,096人が体験した。 ガイドボランティアは612人の来館者に解説を行った。	S
施設維持事業	職員による毎日の環境整備を実施した。 老朽化が進む旧事務棟・展示棟・住居跡保護棟・擬木標示遺構の維持管理を適切に行った。	A

Ⅲ 文化財業務委託事業

1 埋蔵文化財センター事業

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の対策からはじまり、埋蔵文化財センターも4・5月の2か月間は休館措置を取りましたが、その間にも職員は在宅勤務を取り入れながら職場の密状態を避けて作業を継続し、滞りなく委託事業を推進することができました。

発掘調査事業では、戸塚区舞岡熊之堂遺跡の整理作業を開始し、市内でも有数の内容（縄文時代環状集落、弥生時代環濠集落、戦争遺跡）を持つ遺跡の実態が徐々に明らかになりつつあります。瀬

谷区の上瀬谷通信隊跡地の試掘調査では広大な米軍返還地の一部の試掘調査が行われ、縄文時代・近代（戦争遺跡）遺構が発見されています。同地は花博開催予定地でもあり、今後も継続的に調査が行われる予定です。また、平成27年度に新市庁舎建設予定地において発掘された洲干島遺跡については、歴史博物館・都市発展記念館で行われた企画展示を記念して、資料集を刊行しました。出土遺物の図面を網羅し、遺跡の内容を後世に伝える必須の資料と言えます。

1970～80年代に発掘調査された港北ニュータウンの遺跡群については今年度も整理作業を継続し、大型の複合遺跡である権田原遺跡の5冊目の報告書を刊行しました。これまでの旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の報告に加え、本書では中世十三塚の報告を追加し、さらに既刊行の報告書では触れえなかった遺物の分析などを盛り込んでいます。また、縄文時代の状態の良い環状集落として著名な神隠丸山遺跡の整理作業を継続しました。多数の縄文土器の接合作業が進んでいます。

収蔵している出土遺物や図面・写真などの記録類の整備事業も継続して行っています。経年劣化の進む写真フィルムのデジタル化を進め、また劣化の恐れのある金属器の保存処理も順次行っています。

普及啓発事業としては、金沢区の市指定史跡である野島貝塚に焦点をあてた企画展「横浜の遺跡展 野島貝塚—環境変動にみる縄文時代早期の人々」を金沢図書館にて同館の協力を得て開催しました。また、この金沢図書館における展示と例年行っている栄図書館における展示「わが町の遺跡—公田平台遺跡」と埋文センターのエントランス展示「きみの隣の弥生人！—殿屋敷遺跡群を3館同時開催とし、クイズラリーを展開して市域南部の集客に努めました。

令和2年度はコロナ禍によって小学生の施設見学がなくなり、中学生の職場体験も電話によるインタビューのみとなりましたが、その反面、在宅で楽しめるコンテンツとして勾玉キットを通信販売し、勾玉の説明動画や製作動画を作成し、ネット上にアップしました。また、埋蔵文化財センターのツイッターを開始し、新たな情報発信ツールとして活用し、反響を呼んでいます。

令和2年度の秋より、これまで市の公共事業に伴う発掘調査が指名競争入札となりましたが、これまで通り横浜の埋蔵文化財行政に対して積極的に関わり、埋蔵文化財の記録・活用を担っていく方針を基本として、積極的に応札し受注しました。

1 埋蔵文化財整備事業（定款第4条第1項第1号①）

港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、報告書としてまとめました。また、記録資料の整理・写真資料等のデジタル化や、ボランティアの協力を得ての出土品再整備等を進め、資料の保管状況を改善しました。

(1) 遺物整理・調査研究

項目	事業内容
<small>ごんたつばら</small> 権田原遺跡（補遺編）の整理 （2／2年次）	権田原遺跡の5冊目の報告書として、石材・金属製品・炭化物等の科学的な分析の成果をまとめた。
<small>かみかくしまるやま</small> 神隠丸山遺跡（縄文時代中期編）の整理 （1／3年次）	縄文時代の環状集落として著名な神隠丸山遺跡について、縄文時代中期の遺構・遺物の整理作業を開始。

(2) 報告書刊行

項目	事業内容
権田原遺跡Ⅴ（補遺編） <small>ごんたつばら</small>	出土資料整理・調査研究の成果をまとめ報告書として刊行した。 作成部数 300 部

(3) 資料保存・整理

項目	事業内容
記録資料デジタル化	港北ニュータウン遺跡群や公共事業に伴う遺跡調査の写真記録類をデジタルデータ化した。 カット数：4,444 カット
出土品等保管再整備	①寺尾遺跡ほかの出土資料や写真の再整理作業を、整理ボランティア延べ7名の協力を得て実施した（コロナの影響で参加者減）。 ②劣化の進む金属器の保存処理（クリーニング、脱塩） 長昌寺前横穴墓群出土鉄器他
図書等の受入れ・整備	受贈図書のほか蔵書の管理について、データベース化を図り、市民の利用に供した。 受入れ点数 合計 2,089 冊

2 普及啓発事業（定款第4条第1項第1号②）

港北ニュータウン開発や公共事業等に伴う発掘調査の成果を市民へ還元し、埋蔵文化財保護への関心を高めるため、広報紙やホームページ等で情報を発信し、埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを開催しました。また、例年は小中学校の見学や職場体験などの受け入れを行っていますが、令和2年度はコロナ禍の影響で、屋外の遺跡見学などに限られました。

(1) 広報

項目	事業内容
広報紙の刊行 (年2回)	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信した。 ・「埋文よこはま」42 横浜の十三塚の特集 ・「埋文よこはま」43 「横浜の史跡」野島貝塚の特集 企画展特大号 各 10,000 部
洲干島遺跡資料集の刊行	新市庁舎が建設された敷地の事前発掘により明らかになった、横浜銀行集会所跡・原合名会社アパート跡・本庁小学校跡・横浜商品倉庫弁天橋出張所跡・航路標識管理所跡など、明治・大正期の横浜の街を構成した様々な遺構と出土遺物の内容を一般に供するため、刊行した。 印刷・配布部数 300 部
WEBによる情報公開	財団開設のホームページ上で、市内の埋蔵文化財情報や、Q&A、財団各施設の情報提供、刊行物の紹介等、催し物の案内を行った。本年度は 15 回更新しました。また、新しく埋蔵文化財センターのツイッターを開始した。

デジタルサイネージ	新市庁舎のデジタルサイネージに申し込み、催し物の情報を発信した。具体的には令和3年3月15日～3月31日の期間に、金沢図書館・栄図書館・埋蔵文化財センターで3館同時に開催した展示の情報を発信した。
-----------	--

(2) 講座・講演会等の開催

名称／開催期間	事業内容
考古学講座 歴史散策 「縄文時代の貝塚を 歩く―野島貝塚と夏 島貝塚―」 令和3年3月20日(土)	金沢図書館で開催した「横浜の遺跡展 野島貝塚」と関連させて、展示期間中に野島貝塚・夏島貝塚等を訪ね歩く講座を開催した。講師として、埋蔵文化財センター職員その他、横須賀市教育委員会の職員にも外部講師とした協力をいただいた。 資料代：500円 参加者：20人（応募：25人） 共 催：栄地域史研究会
地域歴史散策 13「笠間 村周辺を歩く」 令和2年9月26日 (土)	栄区の旧笠間村周辺の旧跡を訪ねる講座。新橋道標や笠間中央公園遺跡、起立社の遥拝所などを巡った。 資料代：500円 参加者：25人 共 催：栄地域史研究会
地域歴史散策 14「金沢 文庫から金沢八景を 歩く」 11月28日(土)	金沢区の旧跡を訪ね歩く講座。国指定史跡称名寺境内をはじめとして、瀬戸神社旧境内地内遺跡や上行寺東やぐら群遺跡などを巡った。 資料代：500円 参加者：21人 共 催：栄地域史研究会
地域歴史散策特別編 「やぐらのことを知 ろう」 3月13日(土)	中世に造られ、鎌倉周辺に数多く分布する「やぐら」を実際に訪ねて学ぶ講座。鎌倉市の覚園寺裏山やぐら（別名：百八やぐら）を訪ねた。 資料代：500円 参加者：14人 共 催：栄地域史研究会
講師派遣	8/6 勾玉作り教室（青葉台コミュニティハウス） 20人 1/20 青葉の遺跡巡り 市ヶ尾周辺（青葉台コミュニティハウス） 20人 3/10 青葉の遺跡巡り 元石川周辺（美しが丘西地区センター） 20人
学校対応	コロナの影響で小学校の施設見学はなかった。中学校の職業体験はインタビューのみとなった。 5/20 七石山横穴墓群見学（栄区小学校職員研修） 25人 11/25 七石山横穴墓群見学（西本郷小児童） 88人
見学者対応	希望者に展示室の案内・解説やDVDの視聴に対応した。 見学者：279人（前年度474人）

(3) 展示等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
-----------	------

横浜の遺跡展「野島貝塚—環境変動にみる縄文時代早期の人々」 令和3年3月5日(金) ～4月27日(火)	市指定史跡である金沢区野島貝塚に焦点を当て、過去の発掘調査の記録や遺物を丹念に追った研究成果を金沢図書館にて展示して公表した。当財団所蔵資料の他、横須賀市自然・人文博物館や鎌倉学園所蔵資料も借用して公開した。 会場・共催：金沢図書館
図書館展示「わが町の遺跡—公田平台遺跡令 和3年3月5日(金)～ 4月27日(火)	毎年行っている栄図書館との共同事業。今年度は平成29・30年度に栄区内で発掘されたばかりの古墳時代集落遺跡である公田平台遺跡の成果を展示にて公表した。 会場・共催：栄図書館
エントランス展示「きみの隣の弥生人！—殿屋敷遺跡群」 令和3年3月5日(金) ～4月27日(火)	埋蔵文化財センターにて、これまでにあまり取り上げてこなかった港南区の遺跡の紹介として、弥生時代の環濠集落跡が発掘されたとの屋敷遺跡群を取り上げて展示にて公表した。 会場：埋蔵文化財センター エントランス
3館同時開催展示事業	上記の金沢図書館・栄図書館・埋蔵文化財センターの展示は、会期を合わせて3館同時開催とし、クイズラリーを展開して市民の興味を引くように工夫し、多くの参加者を得た。また、Webアンケートを導入し、展示観覧者の評価を広く求めるようにした。

(4) 実物資料利用

項目	事業内容	
発掘資料・写真資料の貸出展示等	遺物貸出：市内小学校で常設展示	12件
	コミュニティハウスで常設展示	1件
	博物館等の施設	7件
	写真利用：博物館等の施設	1件
	横浜市ほか公共機関等	1件
	出版社	5件
	テレビ番組	4件
	新聞・広報誌等	2件
	その他	2件

3 発掘調査事業（定款第4条第1項第1号①）

文化財保護法に基づく埋蔵文化財の発掘調査業務を受託しました。

事業略名称	遺跡名	所在地	委託者	備考
まいおかくまのどう 舞岡熊之堂遺跡 整理事業	舞岡熊之堂遺跡	横浜市戸塚区	横浜市健康福祉局	縄文・弥生時代 集落跡、近現代 照空隊陣地跡

旧市庁舎街区遺跡 試掘調査支援業務	旧市庁舎街区遺跡	横浜市中区	横浜市教育委員会	近代 旧市庁舎跡
旧上瀬谷通信施設地区遺跡 試掘調査支援業務	旧上瀬谷通信施設地区遺跡	横浜市瀬谷区	横浜市都市整備局	縄文時代 狩場 近代 軍事施設

4 施設連携事業（定款第4条第1項第1号②）

事業の共催や展示協力など財団他施設との連携を行ないました。

項目	事業内容
洲干島展示	新市庁舎完成記念3館連携展示（横浜都市発展記念館「近代横浜を掘る—洲干島から広がる都市のすがた」、横浜開港資料館「町会所から市役所へ—古地図と古写真に見る横浜の歩み—」、横浜市歴史博物館「明治・大正ハマの街—新市庁舎建設予定地・洲干島遺跡—」）にあたり、調査研究及び出土品・写真資料の貸し出し等協力を行った。
お城 EXP02020 12/19（土）・20（日）	お城エキスポ実行委員会が主催した「お城 EXP02020」で横浜市歴史博物館と協力し、発掘調査成果を含めた横浜中世城郭のパネル展示を行った。また、発掘調査の様子を中心とする映像を作成し、ブース内で上映した。
旧関帝廟資料整理	旧関帝廟・中華会館から検出した石敷遺構や採集された陶磁器・石碑などの遺物について、都市発展記念館、ユーラシア文化館と共同で資料調査・調査研究を行った。成果は都市発展記念館紀要に掲載した。

5 埋蔵文化財センター施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

埋蔵文化財センターの施設維持管理及び運営を行ないました。

管理対象施設	事業内容
埋蔵文化財センター	施設の維持管理 おもな修繕等：受水槽、ポンプ室扉、電源交換機
	研修室の利用 8団体 計1,435人



横浜の遺跡展（金沢図書館）



舞岡熊之堂遺跡 整理作業



お城 EXP02020 展示

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
------	------	----

埋蔵文化財整備事業	港北ニュータウン内遺跡について、予定通り報告書を1冊刊行した。また次の報告書刊行予定の遺跡について整理作業を進めた。写真フィルムのデジタルデータ化、保管出土品の再整理など資料の保全に努めた。また、新たに金属器の保存処理を開始した。	A
普及啓発事業	コロナ禍の中ですが、金沢図書館・栄図書館と共催して3館同時開催の展示を行い、好評を博した。また、地域散策の講座を行い、地域に密着した普及啓発事業を行った。また、ツイッターを開設し、催し物の効果的な宣伝を行った。	A
発掘調査事業	文化財業務委託事業外の業務委託による発掘調査・整理作業3件（試掘支援2件、整理作業1件）を受託しました。うち2件は事業規模の大きなものであったが、いずれも現行の職員体制で、滞りなく事業を完了することができた。	S
施設連携事業	新市庁舎完成記念3館連携展示や、歴博とともに「お城 EXPO2020」に協力した。また、青葉区のコミュニティハウスや栄地域史研究会とも連携して事業を行った。また、先に述べた通り、栄図書館、金沢図書館とも連携して展示を開催した。	A
施設維持事業	令和2年度は、受水槽のセンサーが壊れトイレが流れなくなったり、主電源の交換機が寿命を迎えてセンター全体が停電したりと、施設を機能させるための根幹部分の老朽化による故障が目立ったが、いずれも適切に対応して早期の復旧に努めた。	A

2 史跡等管理事業

横浜市の歴史・文化財関連施設の維持管理・運営を行いました。

1 八聖殿郷土資料館事業（定款第4条第1項第1号）

令和2年度事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年6月19日まで閉館となりました。また、開館後も当館の主たる事業が密閉・密集・密接を伴うことから、最大限の感染防止を図りながら、お客様のニーズにできる限りお応えしていこうと事業方針・管理体制を大きく変えるために試行する一年となりました。

（1）休館中の館内再整備

項目	事業内容
リモートワーク体制の整	Google Meetを導入し、臨時雇用職員を含めた当館スタッフ全員がリモートワ

備	ークや定例会議を開催できる環境を整え、活用を始めた。同システムは現在も活用している。
感染症対策の検討	日本博物館協会や他施設の感染症対策のガイドラインを全スタッフへ配布して、リモート会議で対策を検討した。館再開後のお客様の動線確保や受付方法、消毒・衛生管理方法について話し合い、スタッフの共通認識を図るとともに、開館までに準備できることを分担した。
他施設との調整	日頃から事業連携をしている、本牧の地区センター・図書館・コミュニティハウス・ケアプラザで、感染症対策について情報交換を行い、対応に漏れやばらつきが無いよう、定期的に検討した。
展示室の再整備	次のとおり展示室の再整備を行った。 ① 劣化した壁面の養生 ② 1階展示資料の配置替え、解説パネルの全面入替 ③ 触れる道具・図書資料・アルバム等の一部撤収 ④ 2階展示室を資料整理スペースにするための展示撤収
あおぞら博物館パネルの設置	閉館期間中も、本牧の歴史に触れ、楽しみながら当館が建つ本牧臨海公園内を散策できることを目的に、本牧臨海公園の指定管理者である横浜植木株式会社の協力のもと、あおぞら博物館パネルを設置した。(内容については後述のとおり。)
図書資料の整理	未整理のままとなっている図書資料について、次のとおり区分し、①②の図書資料について、一部を目録として整理した。また②③の図書資料については閉架保管することし、準備を進めた。 ① 日常的に使用する図書資料 ② 日常的には使用しないが同一群としてまとまっている図書資料 ③ 日常的に使用せず、配架順も不明である図書資料
体験用消耗品の作成	事業再開に備え、勾玉づくり、火おこし体験などで使用する消耗品の作成を行った。
展示室・園内の定期清掃	閉館期間中は、館周辺の清掃を中心に、定期的に公園内の清掃を行った。
植栽の管理	閉館期間中も当館で育成している植栽への水やりや手入れ、清掃、剪定を行った。

(2) 開館再開に向けての受入準備 (令和2年6月10日から19日まで)

項目	事業内容
屋外受付カウンターの設置	お客様を玄関外でお迎えし、マスク着用・手指消毒のご協力お願いと、検温の実施ができるよう、屋外に受付カウンターを設置した。 互いに死角となる屋外受付と事務室のスタッフが常に会話し、画像で互いの状況を確認できるよう、Google Meet を常時接続するようにした。 また、屋外受付に配置されたスタッフもパソコンを使った業務に従事できるよ

	う LAN 環境も再整備した。
お客様動線の確保	お客様の動線を一方通行とし、受付で確実に手指消毒・検温できるよう次のものを構築し、設置した。 ① 入館・退館口看板の設置 ② マスク着用・手指消毒・検温へのご協力看板の設置 ③ 屋外手洗い場の設置 ④ 一方通行通路の設置
消毒手順の確認	1日4回程度、定期的に巡回消毒が行えるようチェックシートを作成し、館内および屋外ベンチ等の消毒手順を確認した。また、未使用スリッパと使用済みスリッパが混同しない手順、使用済みスリッパの改修・消毒手順を確認した。

(3) 感染拡大防止に関する普及啓発

当館は史実を介してお客様へ普及啓発を行うことを責務とした館であることから、新型コロナウイルス感染拡大についても、これまで日本および世界でどのような感染症との闘いがあったのか、どのように乗り越えてきたのか啓発することが責務と考え、タウンニュースのコラムで2回、当館ブログで3回、当館主催講座で2回、他館主催講座で1回取り上げた。(個々の事業については後述のとおり。)

この取り組みについては、大きな反響を呼び、読売新聞の感染症対策の特集でも取材を受けた。令和2年9月6日発行で当館コメントが記事として紹介された。

(4) 歴史講座・歴史散歩

項目	事業内容
歴史講座「辻舌法」の実施	<p>収蔵資料や地域の歴史を普及するための事業として、毎月さまざまなテーマで講座を開催していたが、毎回多くの参加者がいるため、従来の方法による開催は断念せざるを得ない状況となった。</p> <p>新しい試みとして、屋外となる当館前庭を会場として、講義時間も60分のミニ講座「辻舌法」を、次のとおり開催した。屋外での開催であり、講義時間も短縮されることから、参加資料代も無料として実施した。</p> <p>この新しい試みについては、令和2年11月27日発行の朝日新聞記事で紹介された。</p> <p>第1回 6/21(日)・27(土)・28(日) 3日間とも午前・午後の2回ずつ 計6回開催 横浜開港と感染症との闘い(感染拡大防止に関する普及啓発事業) 講師：相澤竜次(八聖殿郷土資料館) 参加者計120人</p> <p>第2回 9/18(金)～24(木) 7日間とも午前・午後の2回ずつ 計14回開催 外国人が見た日本人の美德(感染拡大防止に関する普及啓発事業) 講師：相澤竜次(八聖殿郷土資料館) 参加者計111人</p>

	<p>第3回 10/16(金)～22(木) 7日間とも午前・午後の2回ずつ 計14回開催 関東の寛永大飢饉と幕府政治 講師：曾根勇二氏(元八聖殿学芸員)他 参加者計143人</p> <p>第4回 11/20(金)～26(木) 7日間とも午前・午後の2回ずつ 計14回開催 伝承・神話と災害 講師：相澤竜次(八聖殿郷土資料館) 参加者計124人</p> <p>第5回 12/18(金)～24(木) 7日間とも午前・午後の2回ずつ 計14回開催 玉縄城下と本牧郷 講師：曾根勇二氏(元八聖殿学芸員)他 参加者計89人</p>
歴史散歩の実施	歴史散歩も毎回参加者計が250人を超えることから、従来の方法による開催は断念せざるを得ない状況となった。今後の再開についても未定のままとまっている。



辻舌法の様子



2階ベランダにもお客様

(5) 本牧あおぞら博物館

当館が臨時休館となり、お客様が展示を見ることができなくなってしまったこと、緊急事態宣言発令により自宅で過ごす地域の方々が本牧臨海公園を散歩する機会が増えたことから考えた企画。本牧の歴史に関する話題をいろは44枚のパネルにして、散歩しながら本牧の歴史を知っていただき、楽しんでいただきながら、44枚のパネルを探していただけるようにした。アップダウンの多い本牧臨海公園を一周すると1.2km歩けるよう、本牧臨海公園の指定管理者である横浜植木株式会社と相談して本牧臨海公園内の各所に配置した。地域ミニコミ誌等にも紹介され、現在も実施している。

また、学校の授業でも同パネルが授業で活用されるようになり、パネルで紹介している内容をもっと詳しく知りたいというお問い合わせも増えてきている。



はまかせ 新聞記事

(6) 本牧ツウ

大鳥中学校コミュニティハウス・本牧原地域ケアプラザ・当館・地元有志との協働で実施した新規事業。新型コロナウイルス感染拡大防止から、利用者との接点が無くなり、自宅から引きこもりがちとなる高齢者に、散歩を楽しむきっかけとなり、集まることなくコミュニティハウスやケアプラザへも立ち寄ってもらえるきっかけとなる企画をとということで実施した。

本牧にある小さな名所を歴史的な背景も含めて紹介したマップを用意し、参加者は各施設でそのマップを受け取り、指定期間中にその場所を探して、マップに載っている写真と同じアングルで写真を撮ってもらい、各施設で全ポイントを発見したことを申告する。全ポイントを制覇された方には「本牧ツウ認定証」をプレゼントする企画。紹介した場所についてさらに解説を聞きたい方のために「辻舌法講座」「小さな旅（散策）」企画も併せて実施した。

初級・中級・上級の3回実施。各回およそ200人がマップを受け取り参加した。この取り組みは話題となり、令和2年12月27日の神奈川新聞の記事としても紹介された。

初級編 9/15～10/31 辻舌法講座 参加者15人

中級編 11/15～12/28 辻舌法講座 参加者22人、小さな旅 7人

上級編 1/15～ 2/28 辻舌法講座 参加者27人、小さな旅30人

(7) ホームページの大幅刷新、QRコードを使った展示動画解説

展示解説動画や本牧あおぞら博物館解説動画、小学生向けの昔の道具を実際に使っているところを見てもらえる動画を作成し、YouTube 配信を始めている。また、それら動画やタウンニュースコラムをホームページで読んでいただけるよう、ホームページを大幅刷新している。

ホームページで見ることができるとは、QRコードを付けて展示室内に表示することで、お客様が個々に展示室内でも音声と動画で解説を見ていただけるように番組を増やしている。



展示室内に掲示している解説動画QRコード



本牧ツウ 上級編 配布マップ

(8) その他普及事業

項目	事業内容
地域との連携	<p>従来行われていた多くの連携事業が新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止となる中、次の事業を実施した。</p> <p>① 本牧・根岸地区まちづくりの会への協力 本牧根岸連合町内会が中心となって運営する『本牧・根岸地区まちづくりの会』で、地域住民が自分たちの住む町の歴史を知り、ふるさと意識を醸成するための活動を支援している。 今年度も、三溪園に来園したお客様が本牧・根岸地区の散策も楽しんでもらえるように大鳥中学校美術部の協力のもと、地域散策マップを作成し、三溪園入口バス停に貼り出す看板・ポスターを作成した。</p> <p>② 本牧4館共催事業 本牧中学校コミュニティハウス・大鳥中学校コミュニティハウス・本牧地区センターとの4館共催事業で、地域の方々に本牧や周辺地域の歴史や見どころなどを紹介し、地域住民が自分たちの住む町のことをもっと理解し、ふるさと意識を醸成するための活動を行っている。5年目となる今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、前年度休止となっていた次の散策事業のみの開催となった。 12/12(土) 野毛・掃部山地区を歩く 参加者37人</p> <p>③ 本牧ツウ 前述のとおり。</p> <p>④ 本牧和田地域ケアプラザ体験教室 参加者人数限定・抽選により、1日午前・午後の2回ずつ実施。 親子勾玉づくり体験 9/27(土) 参加者51人 正月輪飾り作り体験 12/10(水) 参加者22人</p> <p>⑤ いずみ野地域ケアプラザ 歴史講座「泉区の歴史入門」 区外のケアプラザで行う初めての歴史講座。コロナ禍で対面型レクリエ</p>

	<p>ーションが出来なくなったこと、もともと男性の利用者が少ないというご相談から試行した歴史講座。当館も知名度が中区ほどではない地域の中でのチャレンジとなったが、予定定員オーバーとなった。</p> <p>11/12 (水) 参加者28人</p> <p>⑥ 中図書館 歴史講座「本牧を愛した文豪たち」</p> <p>参加者人数限定・抽選により、2日間実施。</p> <p>11/28 (土) 参加者18人</p> <p>1/26 (火) 参加者18人</p>
本牧地区町内会・ケアプラザでの出張講義	本牧三之谷町内会・パークシティ本牧・本牧和田地域ケアプラザでの茶話会など老人会で歴史講座や体験教室を行ってきたが、コロナ禍の中で、企画していた事業は結果的にすべて休止となった。
本牧中コミュニティハウス定例歴史講座	<p>本牧中学校コミュニティハウスから、本牧の歴史に関する定例歴史講座の講師を務めるよう依頼を受け、毎月第三月曜日に行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止からコミュニティハウスの閉館が続き、実施できない期間が生じた。1月から事業を再開したが、毎回60人を超える参加者数であったため、1回あたりの参加者数を30人までとし、実施日を毎月第三月曜日に加え、同週または翌週金曜日の2回に分けて開催した。</p> <p>また、当初予定していた講義内容も、当初2回は感染症の話、危機管理の話に切り替え、普及啓発の目的も含めて開催した。</p> <p>1/18 (月)・22 (金)</p> <p>歴史を教訓として活かすために</p> <p>(感染拡大防止に関する普及啓発事業) 参加者23人</p> <p>2/15 (月)・26 (金)</p> <p>貞観・安政・大正・平成の震災と救援 参加者41人</p> <p>3/15 (月)・26 (金)</p> <p>小野光景 知っていただきたい本牧の偉人伝 参加者51人</p>
旭区老人福祉施設・福寿荘との連携	<p>旭区老人福祉施設・福寿荘から、年3回程度の歴史散歩の講師をつとめるよう依頼があり、実施している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止から、参加者数を次の2回の実施となった。</p> <p>12/16 (水) 本牧の海岸線を歩く 参加者21人</p> <p>3/17 (水) 鎌倉下道と舞岡 参加者20人</p>
東京湾大感謝祭での出張展示	国土交通省から赤レンガ倉庫で毎年開催している「東京湾大感謝祭」の海の学びブースにて、当館1Fで紹介している海の変遷と東京湾の漁業について出張展示していたが中止となった。
こども植物園 米作りの道具資料貸出	保土ヶ谷区こども植物園で米作りに関する企画展を実施したいとのことで、横浜市緑の協会から当館の米作りに関する資料貸出と道具についての説明の依頼があった。21件27点の資料を貸出し、道具や使い方について解説した。貸出・展示期間12/2 (水)～1/16 (土)

<p>小中学校との連携</p>	<p>① 小学校対象 体験学習・出前授業</p> <p>本牧地域にある小学校からの依頼を受け、学年・クラス個別の内容で、体験学習や、学校への出前授業を実施している。今年度は学校が休校となったりしたため、例年とは大幅に変更となった。</p> <p>4・5月 本牧南小</p> <p>休校のため、学校教職員の研修を兼ねて田おこし・代掻きなどの指導を行った。</p> <p>6/ 5 (金) 本牧南小 5年 田植え指導 40人</p> <p>6/ 22 (月) 大鳥小 3年 養蚕授業</p> <p>例年行っていた富岡製糸場との連携事業「養蚕体験」が富岡市で休止となったので、横浜と養蚕の話をした。 81人</p> <p>7/ 17 (金) 本牧南小 5年 田んぼ草取り指導 40人</p> <p>7/ 22 (金) 本牧南小 5年 田んぼネット張り指導 40人</p> <p>7/ 27 (月) 大鳥小 3年 養蚕体験指導</p> <p>大鳥小学校で蚕種を入手したので、養蚕体験を実施することとなった。養蚕の指導を行った。 80人</p> <p>7/ 29 (水) 本牧南小 5年 田んぼネット張り指導 40人</p> <p>9/ 2 (水) 本牧南小 5年 田んぼネット直し指導 43人</p> <p>9/ 23 (水) 大鳥小 3年 養蚕体験指導</p> <p>大鳥小で夏蚕の養蚕に失敗したため晩秋蚕で再挑戦したいとの相談があり、会津若松市農協と交渉して晩秋蚕を分けていただき再度挑戦することになった。 83人</p> <p>9/ 30 (水) 大鳥小 6年</p> <p>あおぞら博物館パネルを使った本牧の歴史の授業 93人</p> <p>10/ 9 (金) 本牧南小 6年</p> <p>あおぞら博物館パネルを使った本牧の歴史の授業 22人</p> <p>11/ 10 (火) 本牧南小 2年</p> <p>三溪園とはどういうところ 38人</p> <p>11/ 11 (水) 本牧南小 5年 脱穀指導 38人</p> <p>12/ 8 (火) 本牧南小 5年 粃すり指導 40人</p> <p>12/ 15 (火) 大鳥小 2年 町探検 32人</p> <p>12/ 17 (木) 大鳥小 2年 町探検 66人</p> <p>1/ 13 (水) 間門小 3年 昔の道具調べ 38人</p> <p>1/ 20 (水) 間門小 3年 昔の道具調べ 37人</p> <p>1/ 25 (月) 間門小 3年 昔の道具調べ 37人</p> <p>1/ 26 (火) 間門小 3年 昔の道具調べ 37人</p> <p>1/ 29 (金) 本牧小 3年 昔の道具調べ 84人</p> <p>2/ 16 (火) 本牧南小 3年 昔の道具調べ 33人</p>
-----------------	---

	<p>2 / 17 (水) 大鳥小 4年 吉田新田の学習 93人</p> <p>3 / 12 (火) 本牧南小 3年 昔の道具調べ 96人</p> <p>3 / 16 (火) 本牧南小 6年</p> <p>あおぞら博物館パネルを使った本牧の歴史の授業 23人</p> <p>② 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大鳥中学校交遊祭ほか、授業やイベントはすべて休止となった。</p>
横浜市立大学との博学連携	横浜市立大学国際総合科学部まちづくりコースが本牧をフィールドとして活動しており、今年度から2年生の実習や3年生の調査・ワークショップ、4年生の卒業研究に協力している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の防止から、リモートによる個別の質疑応答を行った。
博物館実習	<p>学芸員資格取得のため、当館で博物館実習を希望する大学生2人を受け入れ、文化財保護法の改定、博物館の経営と評価・マーケティング論などの講義を行った。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止から例年参加していたイベントでの体験が少なくなってしまうため、YouTubeの使い方や動画づくりの立案から作成までの作業指導を行った。</p> <p>また、地域イベントでの体験学習指導として、本牧和田地域ケアプラザ体験教室での親子勾玉づくり体験に参加してもらった。</p>
世界遺産富岡製糸場および三溪園との事業連携	世界遺産富岡製糸場の依頼で、同製糸場が実施する市民養蚕事業に当館と三溪園・矢筈原住宅が参加・協力していたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止から富岡市で事業を休止した。

(9) 資料収集保管

項目	事業内容
資料収集	地域の方々から持ち込まれる昭和40年以降の本牧が撮影された写真をデータとして収集している。
資料保管	<p>① 資料台帳の作成</p> <p>これまで未整理のままだった当館資料を歴史博物館により、本格的な整理を開始した。</p> <p>② 図書整理</p> <p>寄贈図書の確認と目録化を進めている。</p>
資料修繕	湿気、乾燥、温度変化で劣化した資料の修繕や清掃を随時行っている。

(10) 調査研究

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面調査が実施できなかった。

(11) 情報発信

項目	事業内容
----	------

情報発信	ホームページ及びブログ等により、八聖殿郷土資料館の展示・普及事業等の情報を発信している。 ブログ更新60回 閲覧者数44,155人
	地域町内会連合会・商店会・三溪園保勝会その他各種団体の協力を得て、地域回覧板や掲示板、三溪園および近隣の店舗に、当館ポスターの掲示を行っている。今年度は、チラシの配布を行わなかった。
タウンニュースコラム執筆	タウンニュース社からコラム執筆の依頼があり、毎週木曜日に発行するミニコミ誌の中区・西区版に、月1回本牧の歴史にちなんだコラムを執筆している。謝金収入は発生しないが、通常10万円枠に当館名称と一緒に掲載されるため、年間に換算すると本来120万円分の広報費を0円で使わせていただいていることとなり、当館PRに多大な貢献をしている。
各種メディア取材	前述のとおり、読売新聞・朝日新聞・神奈川新聞をはじめ、地域ミニコミ誌での取材を受けている。

(12) 施設維持・管理

項目	事業内容
常設展示の保存活用	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館となってしまった期間を活用して、1階展示のリニューアルを図った。
植栽の整備	植栽を維持管理し、入口や建物周辺の美化を保つことで、親しみやすい館・入りやすい博物館の雰囲気づくりに努めるとともに、館および館周辺部を綺麗に保つことでいたずらされない環境づくりに努めた。 ① 当館敷地および公園園路を清掃し、周辺の美化の維持に努めた。 ② ツツジ、アジサイ等の剪定を行い、植栽の美化の維持に努めた。 ③ 春季にはチューリップ200本、夏季にはヒマワリ800本、秋季にはざる菊100鉢が咲くよう、美化の維持に努めている。
来館者サービス	① 公園入口にベンチを置き、夏季にはミストシャワーを設置して親しみやすい館の雰囲気づくりに努めており、来館者や地域の方々の憩いの場となっている。 ② 無料の季節のお土産品（草玩具、どんぐり人形、しおり他）を作成して配布することで来館者に好評を得ていたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止から、配布を休止している。
危機管理訓練	職員全員が参加して、次の危機管理訓練を行った。 ① ノロ対策訓練（消毒液の作り方・清掃・処分方法訓練） ② 防災訓練（避難誘導訓練）
保守管理	① 昭和8年建造の施設を維持・管理し、安全な市民利用を図った。 ② 消防設備法令点検を実施した。（年2回） ③ 本牧臨海公園管理事務所との打合せを行っている。

(13) 八聖殿郷土資料館利用者の推移

令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年3月2日から令和2年6月19日まで臨時休館となった。講座・イベント等の休止により、当初目標数を大きく下回る結果となった。

項 目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
八聖殿郷土資料館利用者数（人）	8,066	15,532	16,764

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
八聖殿事業	コロナ禍に対応した事業の変革・館の使命の真価を問われる年となった。利用者数だけの評価となると数値は半減したが、他団体との連携、展示替え、ネット配信など、新たな試みに挑み、改善を図れる年度となった。	B

2 史跡管理事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜市の文化財である、国指定史跡称名寺境内等の維持管理を適切に行いました。

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稻荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理 所在地：金沢区六浦二丁目

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
史跡管理事業	委託業者による通常の維持管理に加え、新型コロナウイルス対策としてのシールド設置（称名寺「詰所」）、水回りの漏れや詰まりの解消、タケノコや竹の伐採等を総務課職員が迅速に行ったことで安全な状態を確保した。適切に史跡の維持管理を行うことを通じて、近隣住民の信頼感向上に寄与した。	A

IV 市史資料委託事業

横浜市総務局行政マネジメント課の委託を受け、総務局が所管する横浜市史資料室所蔵資料の公開・閲覧を行い、あわせて所蔵資料の保存・管理を行いました。また、昭和の横浜に関する資料の収集に努め、寄贈・移管資料の受入を引き続き行い、令和2年度は1,259点の資料を受け入れました。所蔵資料の活用としては、展示会「神奈川区六角橋 農村から街へ～山室周作日記に見る移り変わり～」を開催した他、室内展示コーナー展を3回開催して所蔵資料の紹介に努めました。

また、都市発展記念館企画展「近代横浜を掘る」、および横浜開港資料館企画展「町会所から市役所へ」「レンズ越しの被災地、横浜」に市史所蔵資料を出品するなど、財団の関連施設や市民利用施設における展示会等に協力して、写真・資料の貸し出しを通じて所蔵資料の公開、普及に努めています。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大と、それを受けた臨時休室（3/2～6/9）等により、入室者数等に大きな影響を受けました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）資料の収集・管理・公開

項目	点数	事業内容
資料の寄贈	寄贈 26件 1,259点	主な収集資料：高橋富美子家資料、五大路子資料、八木宏美家資料ほかの寄贈を受け、整理・目録化を行った。
図書・刊行物	722点	図書（252冊）・行政刊行物（470冊）の収集・整理を行った。
資料の移管		移管された文書および行政刊行物の整理・目録化を行った。
資料の購入	3点	「日立製作所戸塚工場記念アルバム」「絵はがき横浜取引所」「絵はがき YOKOHAMA」を購入した。
資料のマイクロ化等	マイクロフィルム 87,288コマ	公開用の複製資料を作製するため、資料をマイクロフィルム撮影した。 主な資料：鮫島茂資料、高橋富美子家資料、小山芳美家資料・新井寧子家資料など。
資料整理・保存		収集資料の整理、目録の作成、及び一部資料について公開に向け、再整理を行った。また、中性紙封筒への封入及び再整理資料の中性紙封筒への入れ替えを行った。 閲覧室に目録棚を設置し、公開資料の目録を準備の整ったものから順次配架した。 資料を適切に管理し、資料台帳データの点検、更新および資料検索性目録の処理を行った。

		所蔵資料・新規受入資料の公開に向けて、資料整理、目録化、資料のマイクロ撮影、複製の作成を順次行い、写真資料のデータベース化を進めた。
資料公開	入室者数 477 人	資料閲覧・複写・レファレンス対応等を行った。
資料貸出	貸出件数 148 件	出版物掲載 (45 件)、放映等利用 (41 件)、展示出陳 (26 件)、その他、HP 掲載など (36 件) のために写真、パネル及び資料の貸出を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）調査研究

項 目	事 業 内 容
資料調査	戦前期の地域社会や、戦前戦後ならびに高度成長期の市民の生活に関する調査研究を行った。その他寄贈資料に関して、戦中戦後の日記、横浜の小学校について調査研究を行い、その成果を展示等で紹介した。
展示会等の関連調査研究	展示会準備として、戦後横浜の街並みの写真について、また神奈川区六角橋を事例に、大正期から昭和期にかけての農村から都市化の様相について調査研究を行った。
共同調査研究	・戦中・戦後期の都市横浜に関する連携調査研究事業 都市発展記念館・開港資料館との連携研究事業に関し、戦中・戦後から高度経済成長期に関する所蔵資料の調査研究。 *今年度は実施せず。

3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）閲覧室運営

項 目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
展示見学者（人）（注1）目標数 10,000 人	2, 4 6 4	5, 5 1 6	8, 5 4 0
入室者数（人）目標数 1,000 人	4 7 7	6 6 3	9 0 5
資料閲覧室利用者数（人）（注2）	1 9	4 2	9 9
複写申込件数（件）	1 9 9	2 7 9	3 3 2
レファレンス件数（注3）目標数 300 件	1 2 0	1 8 1	2 4 6
電話レファレンス件数（注4）目標数 300 件	2 4 0	2 9 9	2 6 3

（注1）市史資料室内展示コーナーの見学者数

（注2）資料閲覧室は、一次資料専用の閲覧室であり、開架資料の閲覧室とは別室

（注3）レファレンス件数は、入室者からレファレンスを受け付けた件数

（注4）メールレファレンス含む

(2) 展示会・講演会・講座の開催

項目	事業内容
展示会の開催	展示会「神奈川区六角橋 農村から街へ～山室周作日記に見る移り変わり～」 8月22日(土)～10月10日(月) 入場者数：529人
横浜市史資料室内 展示コーナー	室内展示コーナーで、展示「神奈川区六角橋 農村から街へ(第二展示会場)」(8月22日～10月10日)、展示「YOKOHAMA-戦後の風景」(10月14日～1月11日)、展示「大正後期～昭和前期 学校写真の世界」(1月18日～4月10日)を行った。
講演会・講座等	展示関連講座「山室周作日記にみる大正初期の農業」を開催 9月26日(土) 参加者：29人

(3) 情報発信・普及広報

項目	事業内容
『市史通信』の刊行	情報誌として『市史通信』(No. 38～No. 40)を刊行(各5,000部)した。資料提供者(機関)、及び関係者(機関)へ発送するとともに、市民に配布した。また、同一内容のPDFファイルをホームページ上でも公開した。
『紀要』の刊行	所蔵資料の調査を中心とした、横浜の昭和史に関する研究成果を発表するため、『横浜市史資料室紀要』第11号(1,000部)を刊行した。展示関連講演会の記録を掲載した他、所蔵資料に関する研究論文を掲載した。
報告書の作成	令和元年度の展示会「YOKOHAMA1989-平成スタート」および室内展示「YOKOHAMA1968」の内容とその後の調査結果をまとめ、報告書『YOKOHAMA 1968・1989-戦後転換点』として刊行した(1,500部)。
ホームページの公開	ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、刊行物の案内、展示会等の案内、『市史通信』の掲載など情報発信を行った他、新たに「広報課写真資料」の一覧を掲載した。(横浜市総務局行政・情報マネジメント課で作成・随時更新) アクセス件数：55,052件
広報宣伝活動	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会「神奈川区六角橋 農村から街へ～山室周作日記に見る移り変わり～」の案内チラシ・ポスターを作成・配布。『神奈川新聞』展示紹介記事(9/11)掲載。『タウンニュース』神奈川区版(9/17)に紹介記事掲載。その他、六角橋周辺駅PRBOXにチラシ設置。六角橋周辺の商店街へチラシ送付。近隣の地区センターなど公共施設へチラシ送付。 ・室内展示のポスター・チラシを作成、掲示・配布 ・財団メールマガジンによる情報発信
その他	<p>① 講師派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市立大学総合講義「横浜学事始」(7/9) ・戸部小学校特別授業「戸部小の歴史と戸部の街」(1/18)

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
市史資料室事業	今年度はコロナ禍での臨時休室により、入室者数等に大きな影響があったが、横浜市からの委託事業は滞りなく完了した。また都市発展記念館・開港資料館の企画展示への資料協力など、指定管理施設との連携事業もこれまで通りに展開した。	B

【参考:評価の基準】

各事業の評価については、平成 31 年度事業計画と比較した事業進捗・達成度合により、次の基準で自己評価を記載しています。

なお、評価基準については、平成 21 年 6 月の理事会・評議員会で決定されたものです。

S	目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。 定量評価: 目標値 120%以上達成
A	目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。 定量評価: 目標値 105%以上 120%未満達成
B	目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。 定量評価: 目標値 95%以上 105%未満達成
C	目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。 定量評価: 目標値 80%以上 95%未満達成
D	目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。 定量評価: 目標値 80%未満